

ならのがんに関する患者意識調査
報 告 書

平成26年2月

奈良県

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	3
1-2. 調査方法・回収結果	3
1-3. 報告書の見方	3

第2章 アンケート調査結果

2-1 患者本人について

F1. 記入者	7
F2. 年齢階層	7
F3. 性別	8
F4. 居住する医療圏	8
F5. がんの診断時期	9
F6. がんの部位	9
F7. 治療等を受けている病院名	10
F8. 受診形態	11
F9. 現在の治療状況	11
F10. 病院を選んだ理由	12
F11. 病院を選択する際の情報源	13

2-2 医療機関で受けた診断や治療について

問1. 現在の病院に対する満足度	14
問2. 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述）	16
問3. 医師から受けた説明の理解度	18
問4. 疑問や意見の医師への意思疎通	19
問5. 医師の説明時の配慮	19
問6. 医師の説明時の配慮（自由記述）	20
問7. セカンドオピニオンの必要性	24
問8. セカンドオピニオンの経験の有無	25
問9. セカンドオピニオンの満足度	25
問10. セカンドオピニオンを受けて良かった点	26
問11. セカンドオピニオンを受けなかった理由	26
問12. 現在の心身の状態	27
問13. 緩和ケアの認知度	28
問14. 緩和ケアを開始すべき時期の認識	28
問15-1. 緩和ケアの経験の有無	29
問15-2. 緩和ケアの提供・症状の改善等	30
問16. 緩和ケアを受けなかった理由	31
問17. 「がん患者さんのための患者必携」の認知度	32

2-3 今後の治療・療養について

問18. 「がん地域連携クリティカルパス」等の認知度	33
問19-1. 「がん地域連携クリティカルパス」等の制度の利用又は不利用の理由	34
問19-2. 制度を勧められた場合の考え	35
問20. 「在宅緩和ケア」の認知度	36
問21. 「在宅緩和ケア」への考え	36
問22. 「在宅緩和ケア」が困難だと思ふ理由	37
問23. 希望する療養場所	38
問24. 自宅で療養するために必要なこと	39

2-4 相談支援・情報提供について

問25. がん医療に関する相談支援及び情報提供	40
問26. がんに関する情報の充実度	41
問27. 相談支援センターの利用の有無	43

問 28. 相談支援センターを利用しなかった理由	44
問 29. 患者サロンの認知度	45
問 30. 患者サロンを知ったきっかけ	45
問 31. 患者サロンへの参加の有無	46
問 32. 患者サロンに参加したことがない理由	46
2-5 治療と就労について	
問 33. がん治療と継続就労についての認識	47
問 34. がん診断時の就労状況	47
問 35. がんによる就労状況の変化	48
問 36. 仕事の継続に関する事業主の理解・支援	49
問 37. 仕事を継続するために必要な対応・制度	50
問 38. 就労等の情報提供・相談支援に望むこと	51
2-6 全般的なことについて	
問 39. がん対策で奈良県に望むこと	52
問 40. 療養生活を送る中でよかったことや不満、疑問に感じたこと(自由記述)	53
問 41. 医療機関や行政に対するがん医療に関しての自由意見	58
(参考)	
アンケート調査票	65

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的

がん患者の受療の状況や受けた医療に対する満足度、がん医療に関する認知度等を調査することにより、がん患者の医療に対する認識や行動を明らかにし、今後のがん対策の基礎資料を得ることを目的とする。

1-2. 調査方法・回収結果

調査対象	奈良県内の病院に入院又は通院中のがん患者
配布実数	1,337人
有効回収数	812人
有効回収率	60.7%
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・がん診療を行っている県内41カ所の病院へ持参又は郵送により調査票を配布し、がん患者へは、調査期間中に、病院の医師や看護師等から手交した。(病院への配布数は2,080枚)・原則として患者本人の記入方式としたが、記入できない場合については、家族の方などが補助して記入することも可とした。・調査票は奈良県医療政策部保健予防課あての返信用封筒により回収した。
調査期間	平成25年10月1日(火)～平成25年10月31日(木) (回答の締切りは、平成25年11月15日(金)消印有効)

1-3. 報告書の見方

- (1) 比率は全て百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。
このため、100.0%とならない場合もある。
- (2) それぞれの表中の「n数」とは、当該設問に対する回答者数を示す。
- (3) 「複数回答」とは、1人が2つ以上の回答をしてもよい設問をいう。

第2章 アンケート調査結果

第2章 アンケート調査結果

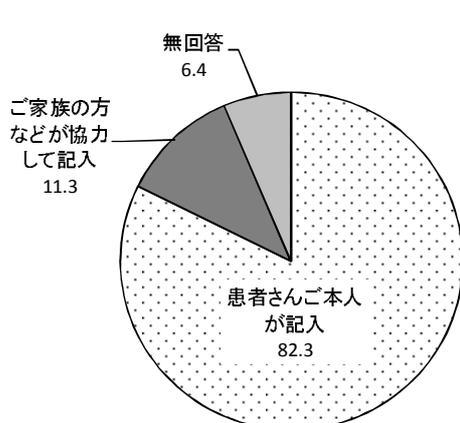
2-1. 患者本人について

F 1 記入者

F 1 このアンケートの記入者はどなたですか。【〇はひとつだけ】

アンケートの記入者については、「患者さんご本人が記入」が82.3%と、8割強が本人記入となっている。

【図 2-1-1 記入者】



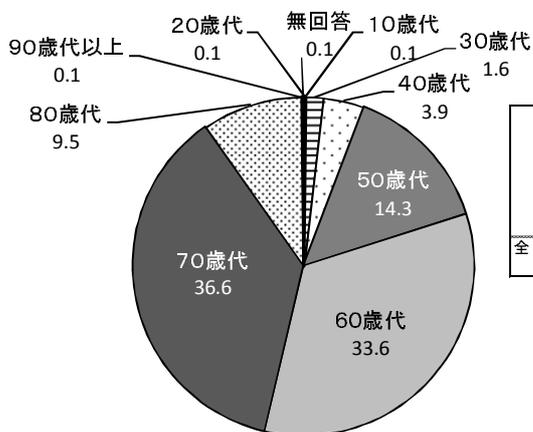
	n	記入者さんご本人が	ご家族の方などが協力して記入	無回答
全体	100.0 812	82.3 668	11.3 92	6.4 52

F 2 年齢階層

F 2 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳代ですか。

患者の年齢階層については、「70歳代」が36.6%と最も高く、次いで「60歳代」が33.6%、「50歳代」が14.3%の順となっている。「60歳代」と「70歳代」で全体の約7割を占めている。

【図 2-1-2 年齢階層】



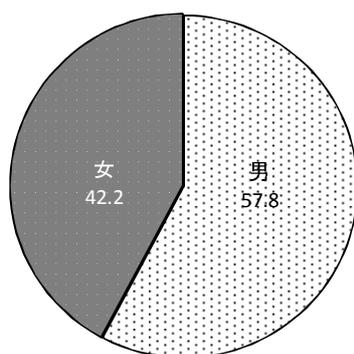
	n	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代以上	無回答
全体	100.0 812	0.1 1	0.1 1	1.6 13	3.9 32	14.3 116	33.6 273	36.6 297	9.5 77	0.1 1	0.1 1

F 3 性別

F 3 患者さんご本人の性別を教えてください。【〇はひとつだけ】

患者の性別については、「男」が57.8%、「女」が42.2%で「男」：「女」=約6：約4となっており「男」の方が多くなっている。

【図2-1-3 性別】



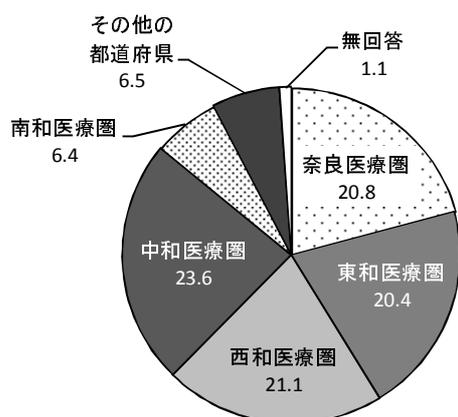
	n	男	女	無回答
全体	100.0 812	57.8 469	42.2 343	- -

F 4 居住する医療圏

F 4 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

患者の居住する医療圏については、「中和医療圏」が23.6%、「西和医療圏」が21.1%、「奈良医療圏」が20.8%、「東和医療圏」が20.4%の順となっているが、いずれも約2割強と同程度の割合となっている。

【図2-1-4 居住する医療圏】



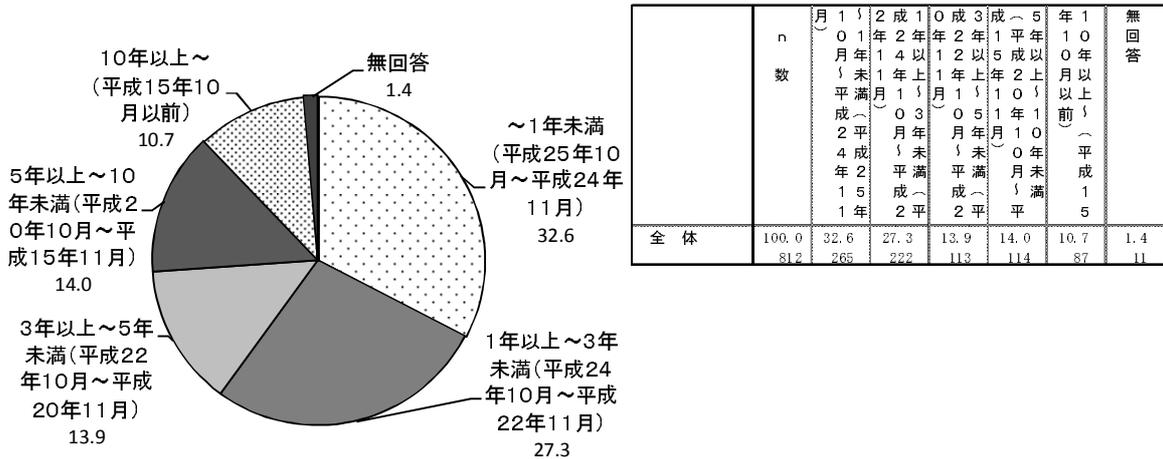
	n	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏	その他の都道府県	無回答
全体	100.0 812	20.8 169	20.4 166	21.1 171	23.6 192	6.4 52	6.5 53	1.1 9

F 5 がんの診断時期

F 5 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

がんと最初に診断された時期については、「～1年未満」が32.6%と最も高く、次いで「1年以上～3年未満」が27.3%、「5年以上～10年未満」が14.0%、「3年以上～5年未満」が13.9%の順となっている。3年未満を合計すると約6割となっている。

【図2-1-5 がんの診断時期】

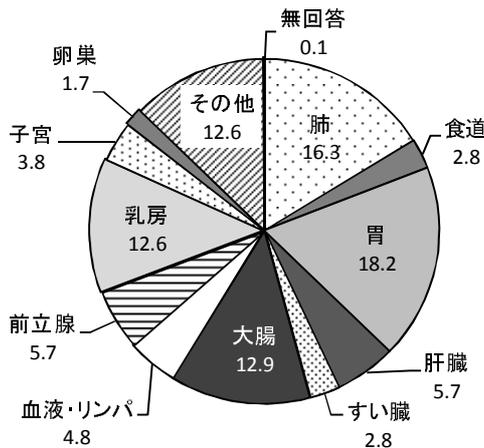


F 6 がんの部位

F 6 最初にがんが診断された部位はどこですか。【○はひとつだけ】

最初にがんが診断された部位については「胃」が18.2%と最も高く、次いで「肺」が16.3%、「大腸」が12.9%、「乳房」が12.6%の順となっている。

【図2-1-6 がんの部位】



【その他】(件数が3件以上を抽出)

- ・直腸 (13件)
- ・喉頭 (4件)
- ・腎臓 (13件)
- ・舌 (4件)
- ・膀胱 (11件)
- ・顎(上顎) (4件)
- ・胆のう (6件)

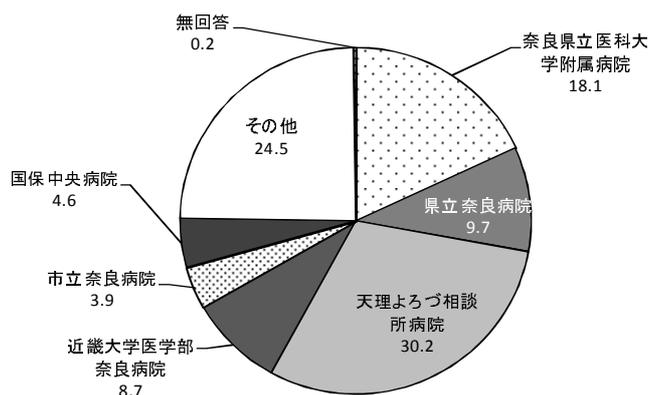
	n	肺	食道	胃	肝臓	すい臓	大腸	血液・リンパ	前立腺	乳房	子宮	卵巣	その他	無回答
全体	100.0	16.3	2.8	18.2	5.7	2.8	12.9	4.8	5.7	12.6	3.8	1.7	12.6	0.1
	812	132	23	148	46	23	105	39	46	102	31	14	102	1

F 7 治療等を受けている病院名

F 7 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。
【〇はひとつだけ】

がん治療等を受けている病院については、「天理よろづ相談所病院」が30.2%と最も高く、次いで「奈良県立医科大学附属病院」が18.1%、「県立奈良病院」が9.7%の順となっている。

【図2-1-7 治療等を受けている病院名】



	n数	奈良県立医科大学附属病院	県立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学医学部奈良病院	市立奈良病院	国保中央病院	その他	無回答
全体	100.0 812	18.1 147	9.7 79	30.2 245	8.7 71	3.9 32	4.6 37	24.5 199	0.2 2

【その他】

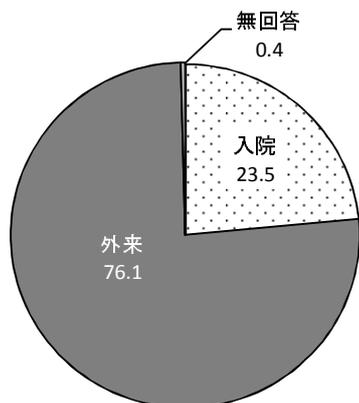
- ・ 県立五條病院
- ・ 済生会中和病院
- ・ 高井病院
- ・ 奈良社会保険病院
- ・ 平成記念病院
- ・ 大和高田市立病院
- ・ 土庫病院
- ・ 宇陀市立病院
- ・ 天理市立病院
- ・ 済生会奈良病院
- ・ 中井記念病院
- ・ 服部記念病院
- ・ 済生会御所病院
- ・ 吉田病院
- ・ 高の原中央病院
- ・ 奈良西部病院
- ・ 平尾病院
- ・ 県外・その他

F 8 受診形態

F 8 現在かかっている病院には、入院、外来のどちらの形で受診されていますか。
【〇はひとつだけ】

受診形態については、「外来」が76.1%、「入院」が23.5%となっており、「外来」が「入院」の3倍強となっている。

【図 2-1-8 受診形態】



	n	入院	外来	無回答
全体	100.0 812	23.5 191	76.1 618	0.4 3

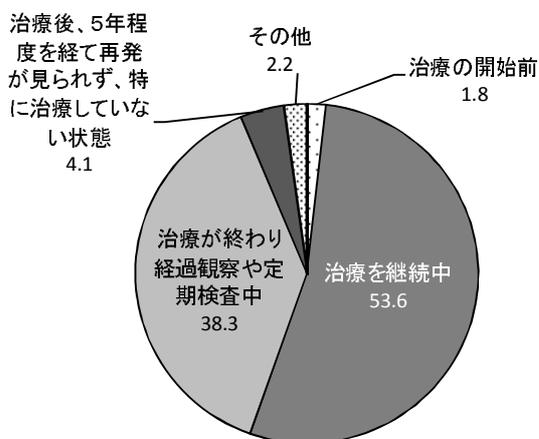
F 9 現在の治療状況

F 9 現在のがんの治療状況を教えてください。【〇はひとつだけ】

現在の治療状況については、「治療を継続中」が53.6%と5割強を占めており、「治療が終わり経過観察や定期検査中」が38.3%と約4割を占めている。

一方、「治療後、5年程度を経て再発が見られず、特に治療していない状態」は4.1%にとどまっている。

【図 2-1-9 現在の治療状況】



[その他]

- ・がんの再発（7件）
- ・治療終了して長期間経っているが、定期的な検診（3件）
- ・緩和ケアに移行（2件）
- ・抗がん剤治療の中断後、緩和治療（1件）

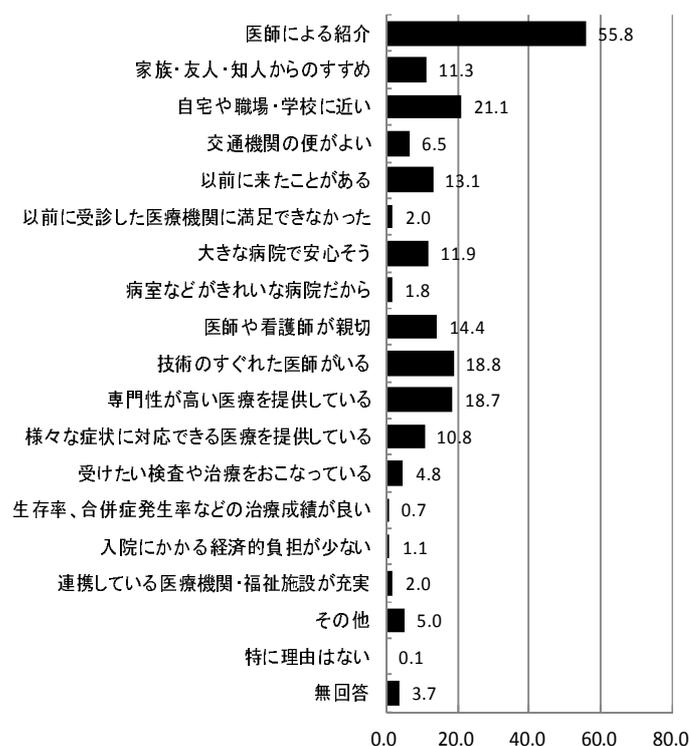
	n	治療の開始前	治療を継続中	治療が終わり経過観察や定期検査中	治療後、5年程度を経て再発が見られず、特に治療していない状態	その他	無回答
全体	100.0 812	1.8 15	53.6 435	38.3 311	4.1 33	2.2 18	- -

F10 病院を選んだ理由

F10 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

病院を選んだ理由については、「医師による紹介」が55.8%と最も高く、次いで「自宅や職場・学校に近い」が21.1%、「技術のすぐれた医師がいる」が18.8%の順となっている。

【図2-1-10 病院を選んだ理由】（複数回答）



	n	医師による紹介	家族・友人・知人からのすすめ	自宅や職場・学校に近い	交通機関の便がよい	以前に来たことがある	以前に受診した医療機関に満足できなかった	大きな病院で安心そう	病室などがきれいな病院だから	医師や看護師が親切	技術のすぐれた医師がいる	専門性が高い医療を提供している	様々な症状に対応できる医療を提供している	受けた検査や治療をおこなっている	生存率、合併症発生率などの治療成績が良い	入院にかかる経済的負担が少ない	連携している医療機関・福祉施設が充実	その他	特に理由はない	無回答
全体	100.0 812	55.8 453	11.3 92	21.1 171	6.5 53	13.1 106	2.0 16	11.9 97	1.8 15	14.4 117	18.8 153	18.7 152	10.8 88	4.8 39	0.7 6	1.1 9	2.0 16	5.0 41	0.1 1	3.7 30

[その他]

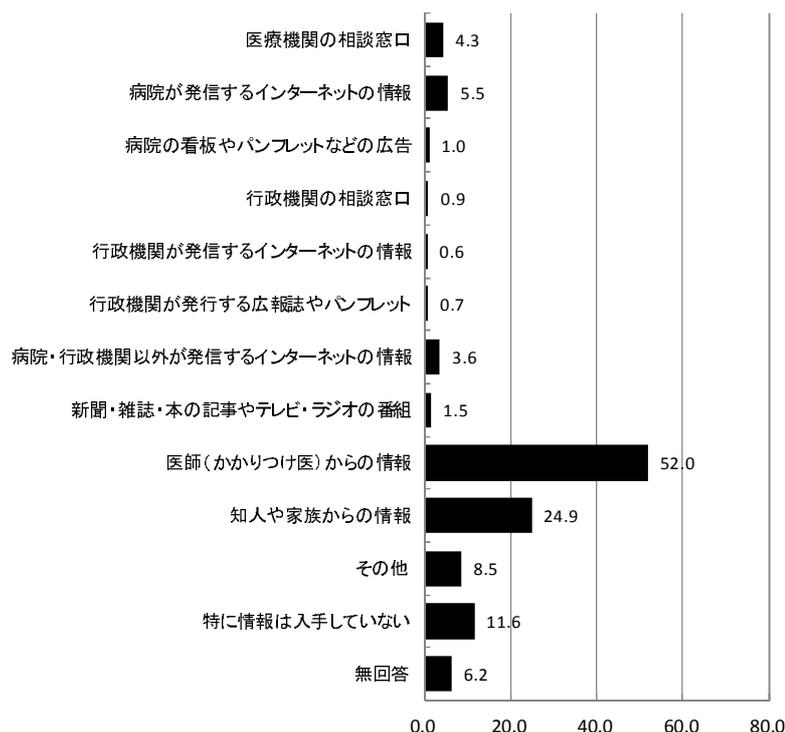
- ・救急車で運ばれたため（6件）
- ・他の病気などで当該病院にかかっているため（5件）
- ・他病院からの紹介（4件）
- ・検診、検査で判明したため（3件）
- ・他病院にいた主治医が現在の病院にいるため（2件）

F11 病院を選択する際の情報源

F11 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。
【〇はいくつでも】

病院を選択する際の情報源については、「医師(かかりつけ医)からの情報」が52.0%と最も高く、次いで「知人や家族からの情報」が24.9%、「特に情報は入手していない」が11.6%の順となっており、「医師(かかりつけ医)、知人や家族からの情報」が高くなっている。

【図2-1-11 病院を選択する際の情報源】(複数回答)



	n	医療機関の相談窓口	病院が発信するインターネットの情報	病院の看板やパンフレットの広告	行政機関の相談窓口	行政機関が発信するインターネットの情報	行政機関が発信する広報誌やパンフレット	病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報	新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組	医師(かかりつけ医)からの情報	知人や家族からの情報	その他	特に情報は入手していない	無回答
全体	100.0 812	4.3 35	5.5 45	1.0 8	0.9 7	0.6 5	0.7 6	3.6 29	1.5 12	52.0 422	24.9 202	8.5 69	11.6 94	6.2 50

【その他】

- ・以前から利用していた (13件)
- ・家の近所にある (5件)
- ・他病院から (5件)
- ・友人、医師などから (5件)
- ・以前から知っていた (5件)
- ・家族などから (4件)

2-2. 医療機関で受けた診断や治療について

問1 現在の病院に対する満足度

(1) 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。
【それぞれ○はひとつだけ】

医師による診療・治療内容の満足度については、「非常に満足している」が51.4%と最も高く、次いで「やや満足している」が27.7%、「ふつう」が13.9%の順となっている。

医師との対話の満足度については、「非常に満足している」が50.5%と最も高く、次いで「やや満足している」が24.8%、「ふつう」が14.8%の順となっている。

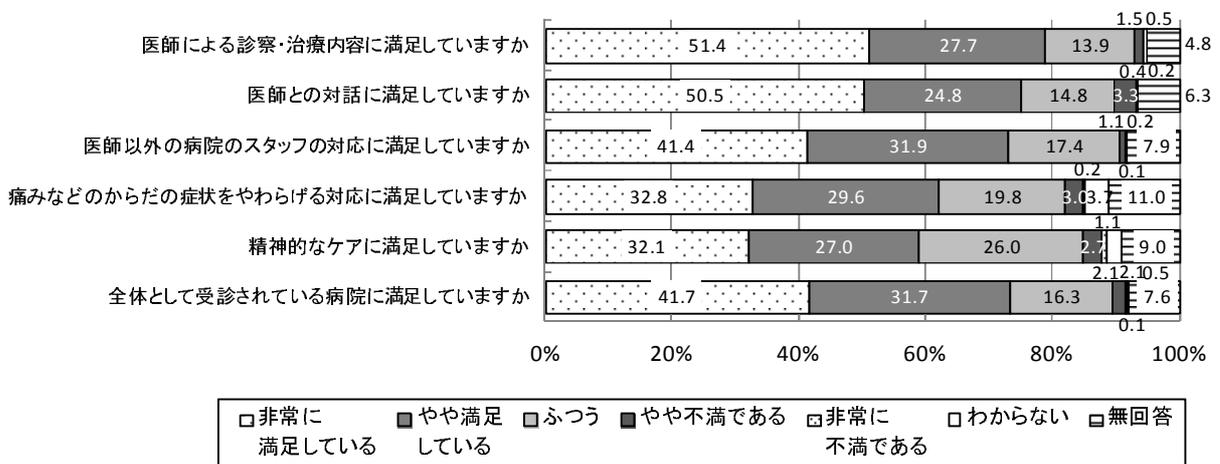
医師以外の病院のスタッフの対応の満足度については、「非常に満足している」が41.4%と最も高く、次いで「やや満足している」が31.9%、「ふつう」が17.4%の順となっている。

痛みなどのからだの症状をやわらげる対応の満足度については、「非常に満足している」が32.8%と最も高く、次いで「やや満足している」が29.6%、「ふつう」が19.8%の順となっている。

精神的なケアの満足度については、「非常に満足している」が32.1%と最も高く、次いで「やや満足している」が27.0%、「ふつう」が26.0%の順となっている。

全体として受診している病院の満足度については、「非常に満足している」が41.7%と最も高く、次いで「やや満足している」が31.7%、「ふつう」が16.3%の順となっている。

【図2-2-1 現在の病院に対する満足度】

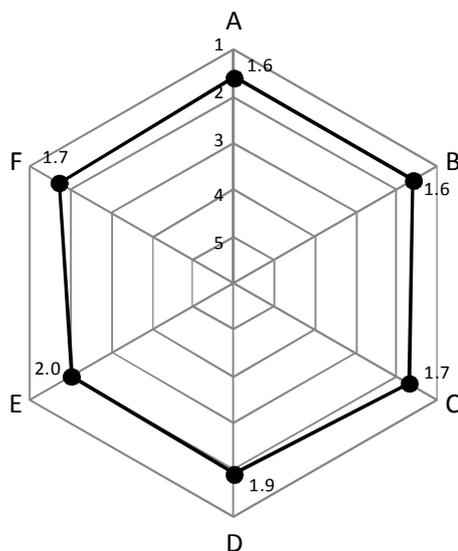


	n	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	わからない	無回答
医師による診療・治療内容に満足していますか	100.0 812	51.4 417	27.7 225	13.9 113	1.5 12	0.2 2	0.5 4	4.8 39
医師との対話に満足していますか	100.0 812	50.5 410	24.8 201	14.8 120	3.3 27	0.4 3	- -	6.3 51
医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか	100.0 812	41.4 336	31.9 259	17.4 141	1.1 9	0.1 1	0.2 2	7.9 64
痛みなどのからだの症状をやわらげる対応に満足していますか	100.0 812	32.8 266	29.6 240	19.8 161	3.0 24	0.2 2	3.7 30	11.0 89
精神的なケアに満足していますか	100.0 812	32.1 261	27.0 219	26.0 211	2.7 22	1.1 9	2.1 17	9.0 73
全体として受診されている病院に満足していますか	100.0 812	41.7 339	31.7 257	16.3 132	2.1 17	0.1 1	0.5 4	7.6 62

満足度を尋ねた6つの項目についてみると、『A：医師による診断・治療内容の満足度』と『B：医師との対話の満足度』がいずれも1.6となっており、最も満足度が高くなっている。

逆に『E：精神的なケアの満足度』は2.0と最も低く、「やや満足している」の水準となっている。

【図 2-2-2 項目別 現在の病院に対する満足度比較】



凡例

A：医師による診療・治療内容の満足度
B：医師との対話の満足度
C：医師以外の病院のスタッフの対応の満足度
D：痛みなどのからだの症状をやわらげる対応の満足度
E：精神的なケアの満足度
F：全体として受診している病院の満足度

点数配点表

1：非常に満足している	2：やや満足している
3：ふつう	4：やや不満である
5：非常に不満である	

かかっている病院の満足度 =
$$\frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「わからない」を除いた有効回答数}}$$

問2 現在の病院に対する不満な点と望む対応

(2) (1) のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。

不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見（意見数が多いなど）のうち代表的なものを上位最大5件まで抽出して掲載している。

A 不満な点は具体的にどのような点か

□医師の診療・治療内容（10件）

- ・先生がよく変わります。3年半で5人目。先生が変わり不安がいっぱいあります。（3件）
- ・退院後の通院にて主治医の先生がこちらの症状を伝えてもなかなか理解してくれなく、時間がかかるのみ。本人は結構不安である。
- ・対話だけで直接体を見たり触ったりはせず、検査データだけの話である。
- ・診断の結果、説明が不親切。病状がどのようなのか、また初めてなのに聴診器を当てての診察がなく、3ヶ月以上経つのに身体に触っていない。
- ・事務的に見ている気がする。

□医師との対話（21件）

- ・予約時間に行っても待ち時間が長い。医師の説明が少ない。若い研修医が偉そうにする。これらを改善して欲しい。（2件）
- ・治療についてももう少し詳細な説明が欲しい。（3件）
- ・検査結果について、より細かな情報と対処の方法等、具体的な説明が少ないこと。（3件）
- ・患者数が多いためか、落ち着いて医師の話を聞くことができない。
- ・主治医の先生と診察中、長々と話をするので症状をなかなか伝えられない。パソコン入力に目がいつて顔を見て話をしてくれない。

□医師以外の病院スタッフの対応（8件）

- ・各科の受付のスタッフの対応が悪い。待ち時間が長いときにスタッフの受け答えが不親切。
- ・緩和ケア認定看護師さんが一人しかおらず、話を聞いてもらう時間がない。化学療法室の看護師さんとのコミュニケーションもあまりない。
- ・本人が痛いといっても、半分くらいに思われている様子。
- ・手術後、4人部屋だった。私は同じ部屋だったが、翌日、部屋替えて、ナースの人がバタバタして大きな声で、大きな音をたてていた。もう少し、患者のことを考えてください。

□症状を和らげる対応（2件）

- ・痛みなどにもっと耳を傾け、アドバイスが欲しい。

□精神的ケア（3件）

- ・精神的なケアはない。
- ・がん患者の精神的不安への対応。
- ・がんの告知を受けたときに精神的なケアについての話が全くなく、家族にも理解されず、1人で落ち込み、どこにも誰にも相談する気力すら出なかった。

□生活相談（3件）

- ・わかっているけど、病院は治療中心、病気の治療のため取り組んでくれてはいるが、患者には生活があるからそういった面のフォローが欲しい。
- ・QOLへの対応が十分でない。
- ・退院後の生活についてのサポートが少ない。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（6件）

- ・リンパ浮腫治療、マッサージ治療が病院内でできない。
- ・がんそのものの診療、治療には大変満足しているが、副作用、私の場合リンパ腫について積極的に教室設置、体操などを患者に行う等のアフターケアが必要だと思った。
- ・患者数が多いので診察時間が短く、ゆっくり話ができない、あわただしい、聞きたいことを聞き忘れる、メモしていかないと忘れる。
- ・予約時間より常時1～2時間待たなければならない。
- ・受診の際、2～3時間待つ。外来の待ち時間が長い。予約なのに…。

B 不満な点について、どのような対応を望むか

□医師の診療・治療内容（10件）

- ・病名が同じがんでも個人によって全然違う。治療なんだから、もっともっと一人ひとりのことをみて欲しい。（2件）
- ・医師個人レベルまでの対応を明確にして欲しい。例えば、セカンドオピニオンで戻りは二度と見ない…など。偽善者は必要ない。
- ・年月が経っているので痛みの原因を言葉だけでなく医学的な治療をして欲しい。
- ・痛い所を手で触ったり、対応のしかた、または同類の患者の話等をして欲しい。
- ・もう少し患者の身になって対応して欲しい。

□医師との対話（15件）

- ・画像等は見せて素人でもわかるように説明して欲しい。かかりつけの開業医院では胃カメラ、大腸内視鏡、超音波等の結果はパソコンの画像等で説明してもらっている。異常なしの場合も。
- ・理解できる説明と不安に対するカウンセリング等の機会があればよいと思う。
- ・医師の気づくこまかな対話が欲しい。（3件）
- ・時間がなく、1人でも多くの人を診察したいとのことわかるが、少しでも会話を増やして欲しい。（4件）
- ・患者さんの身になって話を聞いて欲しい。パソコンとの会話の方が多い気がする。（3件）

□医師以外の病院スタッフの対応（2件）

- ・患者から医師に聞きづらかったり、患者自身では気づけないケアなどはコミュニケーションを通じて看護師さんにサポートしていただきたい。
- ・看護師さんも大変疲れていると思いますが、1人の看護師さんのせいで、たくさんの良い看護師さんが迷惑だと思う。役職の看護師さんの教育もしっかりして欲しい。

□精神的ケア（6件）

- ・正直、多くの患者は精神的に不安定で治療後どのように体調を改善するかを模索すると思う。よって、治療後も一環した精神面、特に身体面のサポートをして欲しい。

- ・もう少し患者の心情を考えて欲しい。
- ・患者は精神的に参っているので病院にケアする機関が欲しい。
- ・患者からの申し出に合わせるのではなく、告知と同時に精神面のケアをして頂きたい。
- ・医師は病気の当事者ではないのでわからない・・・とあきらめているが、看護師のような方がカウンセリングをしてくださったら気持ちが楽になると思う。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（4件）

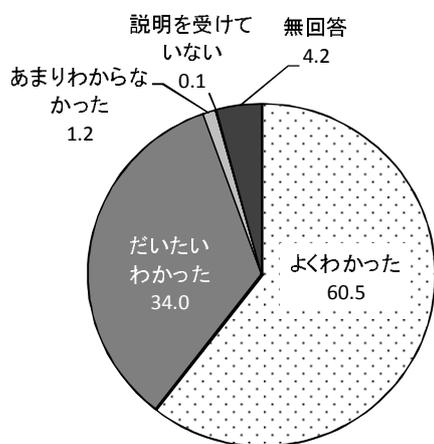
- ・病院内にマッサージ治療ができるようになって欲しいです。
- ・下痢等に対する食事等の工夫事例等を提供して欲しい。外科のままでいいのか？
- ・がんが転移した場合でも同じ病院で最後までできれば緩和ケアも受けたい。
- ・医師の数を増やすべき。

問3 医師から受けた説明の理解度

(3) 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。【○はひとつだけ】

医師から受けた説明の理解度については、「よくわかった」が60.5%で最も高く、「だいたいわかった」が34.0%となっており、わかったと解答した人は合わせて94.5%となっている。

【図2-2-3 医師から受けた説明の理解度】



	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
全体	100.0	60.5	34.0	1.2	-	0.1	4.2
	812	491	276	10	-	1	34

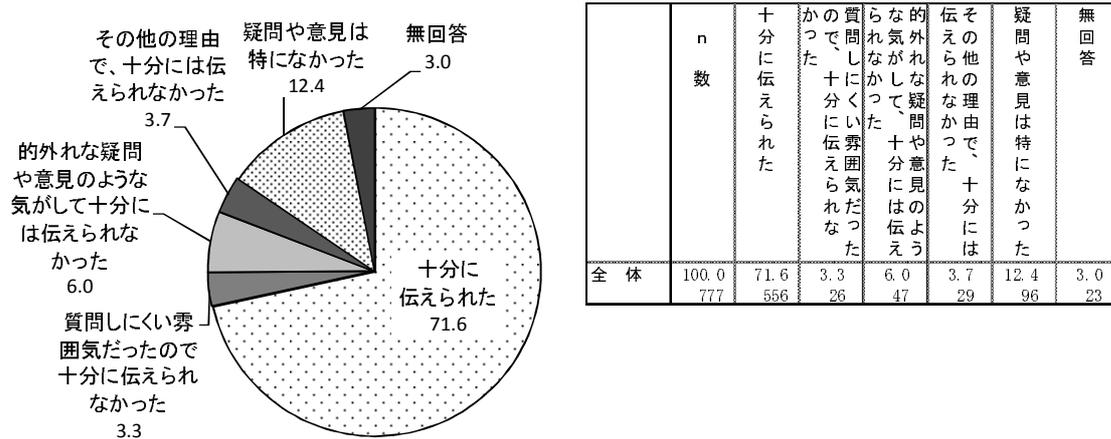
問4 疑問や意見の医師への意思疎通

(4) (3) で1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

疑問や意見の医師への意思疎通については、「十分に伝えられた」が71.6%と圧倒的に高く、次いで「疑問や意見は特になかった」が12.4%、「的外れな疑問や意見のような気がして十分には伝えられなかった」が6.0%の順になっている。

【図2-2-4 疑問や意見の医師への意思疎通】



問5 医師の説明時の配慮

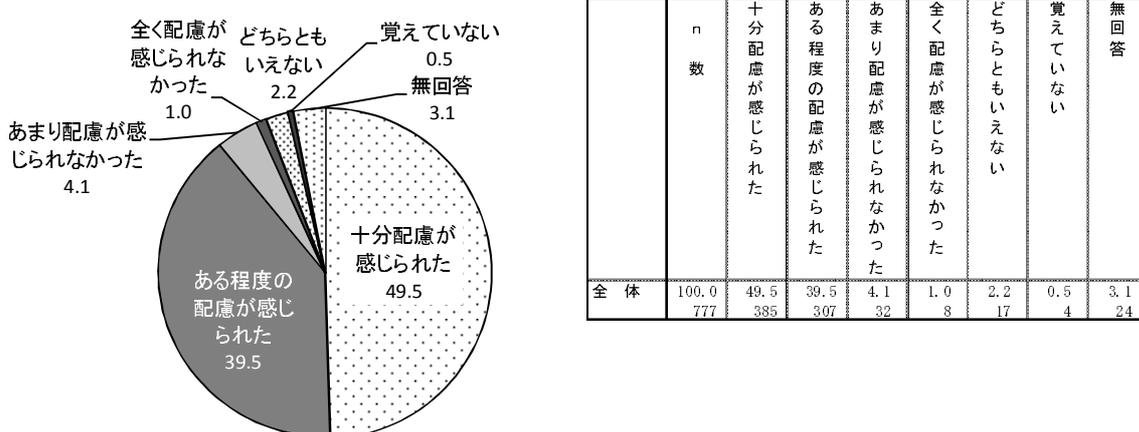
(5) (3) で1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

病名の告知や診断、治療方針の説明の際に、医師からがん患者ご本人の気持ちに対して配慮を感じられましたか。【○はひとつだけ】

医師の説明時の配慮については、「十分配慮が感じられた」が49.5%と最も高く、次いで「ある程度の配慮が感じられた」が39.5%となっており、配慮が感じられたを合わせると89.0%となっている。

逆に「あまり配慮が感じられなかった」が4.1%、「全く配慮が感じられなかった」が1.0%と合わせると5.1%となっている。

【図2-2-5 医師の説明時の配慮】



問6 医師の説明時の配慮（自由記述）

(6) (5) のご回答に関して、下記の点についてご自由にご記入ください。

A：配慮を感じた／配慮を感じられなかったのは、具体的にどのような点ですか。

B：こんな配慮があったらもっと話を受け止めやすかったのという点があったら教えてください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見（意見数が多いなど）のうち代表的なものを上位最大5件まで抽出して掲載している。

A 配慮を感じた/感じられなかったのは具体的にどのような点か

A-1 配慮を感じた点

□病状・治療方法等に対する説明の仕方への配慮（62件）

- ・わかりやすく絵を描いて説明してくれた（治療方法、がんの患部の切除方法について）。（8件）
- ・手術内容・方法等は、かなり丁寧に詳細な説明があった（妻、娘が同伴していたこともあるから）。（4件）
- ・本人、家族に別室で十分な説明があった。
- ・病名告知から手術前後の治療方針を担当医師から適切な説明を受け、信頼できました。さらに担当医師の転勤時における引き継ぎもキッチリされていて安心しました。（8件）
- ・手術による治療は必要ではあるが、治療ができることをまず説明して下さったこと。がん＝即死ではなく、受け止めることができた。そのことにより治療をしようと心構えを持つことができた。

□患者の精神的な受け止め（不安、勇気づけ）への配慮（43件）

- ・入院中も何度も声をかけてくださり、コミュニケーションもとれたことで治療にも前向きに取り組んでいます。（4件）
- ・患者本人に不安を抱かせないようできるだけ配慮されていたように感じた。（4件）
- ・様々なデータを示して、治療を受けた場合の予後がどうなるかなど、とても丁寧に説明していただき、この先生なら任せようという気になった。
- ・いいにくいと思うこともいつてくれた。（2件）
- ・がんと宣告されて頭が真っ白になっているときに現在の進行状況と対策を説明していただき、セカンドオピニオンで〇〇を紹介していただきました。がんだからといって隠したりせず、はっきりと説明してもらえるのはありがたい。

□言葉遣い（わかりやすい言葉等）への配慮（17件）

- ・言葉を選びながら対応されている。（2件）
- ・配慮していただきました言葉というものがこんなに素晴らしいと感じたことがなかった。言葉の大切さを学んだと帰宅したことを記憶にしております。
- ・「大丈夫です」という言葉を聞くことができた。術法の説明がわかりやすく素人でも理解できた。
- ・どのように説明したらショックを受けないだろうかというような言葉の選び方、はっきりがんとは言わず、「あなたのご病気はこうです」というような感じでした。一番最初にCTでがんであるということは聞いていました。

- ・本人にこれは伝えなければと思うときはズバリ言ったり何気なくさりりと言ったりして配慮を感じました。

□がん告知の仕方への配慮（20件）

- ・はっきり告知してもらってよかったです。（4件）
- ・「がん」という文言を使用しない。
- ・医師の笑顔で明るい話し方。
- ・病名の告知をはっきりされたことによりショックは受けましたが、それ以上に今後の治療に対する覚悟ができました。もし、あのときぼやかして伝えられたら、治療の苦痛に耐えきれなかったと思います。その後がどうであれ、自分の置かれた状況は正確に把握しておきたい。

□質問・疑問に対する十分な回答への配慮（23件）

- ・告知され、精神的に不安があったが、安心感のある説明で疑問にも適確に答えてもらったのが病気を受け入れる上で信頼できた。
- ・どの説明の際にも一方的ではなく、疑問に思ったことや違った治療をテレビ等で見たことをいっても丁寧に答えて頂きました。常に明るく接していただけるので気分が落ち込んだりしません。（6件）
- ・考えられることを1つ1つ丁寧に説明してリスクについても話され、本人の意思が最も大切でそのお手伝いをしっかりやるからがんばろうと励ましてくださっている。
- ・自分がいうこと（病気以外のこと）をきっちり聞いてくださった。
- ・当方の疑問や意見をよく聞かれ、緊張せずに話すことができるよう配慮されていると感じました。

□説明への時間のかけ方への配慮（10件）

- ・（配慮を感じた）がんの症状や進行度、術後の治療や検査等、十分に説明していただいたから。（2件）
- ・ゆっくりと時間をかけて説明していただきました。（4件）
- ・納得するまで説明してくれて早期に手術を受けることができた。
- ・相談の時間を十分にとって頂いた。何回も説明してくれた。医師の説明や言葉がけは治療への背中を押してくれた。

□患者の家族への配慮（9件）

- ・最初の説明時には家族のみで本人を呼ばず、家族と相談して本人にも説明。
- ・家族からの質問についてもしっかり回答いただき納得できたこと。
- ・多くの家族が集まれる日を選び、優しく丁寧に説明していただいた。
- ・息子にも丁寧に説明してくれた。
- ・家族も含め、手術の場所、手術後のことも説明を受けた。（4件）

A-2 配慮を感じられなかった点

□病状・治療方法等に対する説明の仕方への配慮（13件）

- ・手術後の後遺症について詳しく説明して欲しかった。本人に余命を直接伝えなかったこと。
- ・説明が端的であった。
- ・治療方法は一つしか説明されず、他の方法について話がなかった。
- ・医師の説明した後質問すると機嫌が悪く顔色が変わり、素人はだまって医者のいったことを聞けと言わぬばかり。
- ・患者は初めてのことで小さな意見でも気軽に話を聞いて欲しい。先生達にしたら怒りっぽい人とかいて十分に話ができないことがある。

□患者の精神的な受け止め（不安、勇気づけ）への配慮（4件）

- ・一緒にがんばろうという感じが受けられなかった。
- ・担当医師により満足を得られるときとそうでないときがある（対応のあり方）。
- ・退治できないがんは理解して治療を受けているが、奇跡を信じて前向きな患者に対し、家族の前で退治できないニュアンスを明言されたのが少しショックであった。延命を少しでも延ばそうと思っているのでドクターも前向きに励まして欲しい。

□言葉遣い（わかりやすい言葉等）への配慮（4件）

- ・いい切るだけでおいていかれているような気持ちになった。
- ・がんとは思いませんでしたので、もう少しやわらかく説明してから病名をいってくださればよかったと思う。頭が真っ白になり、息が詰まった。
- ・デリケートな病気なので言葉に配慮が欲しい。
- ・治療方針については本人の意思や希望を聞いてくださいましたが、精神面で安心できる言葉がけなどなかったです。

□がん告知の仕方への配慮（8件）

- ・病状はステージ4に入っていますが、そのことを伝えるにあたり、生存率は約1年との回答。それが現実だと思いますが、治療を続けて1日でも生存できるようにとか、希望の持てるような言葉が欲しかった。
- ・余命何年と言われなかったが、進行性の悪性腫瘍と告げられ強い衝撃を受けた。
- ・検査後の受診で見たこともない医師より困惑したような感じで告げられた
- ・告知を受けた場所が色々な方が通る場所で、できれば個室で聞きたかった。
- ・なかなか病名をはっきり言われなかった。

□質問・疑問に対する十分な回答への配慮（3件）

- ・診断の際に的外れな、また単純な質問をしたためか、話をしている最中に「もういいから」と一方的に言われた。2~3回と行くのが苦痛になり、先生に嫌われたらと思い心配しました。
- ・他社の優秀な機器を使って診断材料としてくれたのにその測定結果に対して詳しい結果の説明が少なかった。
- ・医者は専門だけど患者は不安のかたまりなのです。だから、患者のわかるように（私のような人）説明して欲しいです。質問も受け入れて欲しい。

□説明への時間のかけ方への配慮（1件）

- ・診断、治療方針の説明時間が短かった。がん検診、告知とはこんなものなのかと思った。

□患者の家族への配慮（5件）

- ・告知は、1人で聞かないで家族か友人と一緒にだったらよかったなと思いました。
- ・今、私は一人で耳が遠く障がい者で具体的にはわからず、長男に帰ってもらって聞き、配慮を感じられなかった。
- ・家族に相談しないで、いきなり本人に告知されたから。
- ・家族の同席もいわれず、いきなり個人で告知を受けた。説明を聞く前にもう少し時間が欲しかった。

B こんな配慮があればもっと話が受け止められやすかったのという点は何か

□病状・治療方法等に対する説明の仕方への配慮（22件）

- ・ただ単におっぱいは命に関係ないと言わず、子どもを育てるのに大事な臓器であることを認めてほしかったし、自分が医療従事者でなく、聞く立場だったら今回の説明をどのように受け止めるか考えていてほしかった。
- ・がんという病気はあまり詳しく知りませんでした。怖さはわかっていました。患者もいろいろといます。少しだけでも目線を下げて話をしてください。お願いします。
- ・後遺症について、いつごろ、どういう症状が出てくるのかを説明して欲しい。（2件）
- ・当病院では対応できないから、他の医療機関を紹介しますぐらいは説明して欲しかったです。

□患者の精神的な受け止め（不安、勇気づけ）への配慮（7件）

- ・医者も忙しいのはわかりますが、がん患者は再発等について常に気にして神経質になっているので患者の身になって親切に対応して、どんなことでも優しく答えて欲しい。
- ・再発治療ということで希望のある話を医師としてできないと思うが、再発しても元気にしている患者さんの話など、少しでも前向きになる励ましの言葉が欲しかった。（2件）
- ・診察のたびに体調については必ず聞かれますが、どんな過ごし方をしていたのか（例えば趣味や習い事）。前向きに生きていける治療に向かう言葉がけがあれば先生との距離感が身近になると思います。
- ・あえていうなら、楽な椅子に座って聞いたかったということで、時間がかかり、少し疲れたのを覚えています。

□言葉遣い（わかりやすい言葉等）への配慮（1件）

- ・病状の進行で考えられるケースについてもう少し具体的に考えてあげて欲しい（77歳の母が理解できるように）。

□がん告知の仕方への配慮（1件）

- ・今「私はがんなんです」と他人に話せる世の中になっているのですが、がん告知のとき（頃）はあらゆる配慮を。どんな質問にも答えられるように何も聞かれない状態になっているかもしれないときでもたっぷり時間をかけて欲しい。

□質問・疑問に対する十分な回答への配慮（1件）

- ・病院のご都合もあると思いますが、遠方だったので退院日を1日くらいの差は聞き届けて頂きたかったと思った。

□説明への時間のかけ方への配慮（2件）

- ・あまり細かく説明されると、余計落ち込む。
- ・検査結果や対処の仕方をゆっくり相談できる時間的余裕があればよい。

□患者の家族への配慮（4件）

- ・何がなんやら家に帰ってからもわからなかった。医師より家庭間に問題あり。
- ・家族に相談してからにしてほしかったし、私としては告知してほしくなかった。
- ・ある程度、覚悟していたので的確に淡々と説明していただけたのは良かった。ただ、家族と一緒に聞けばもう少し受け入れやすかったとも思う。
- ・誰かと一緒に話を聞くように進めて欲しい。

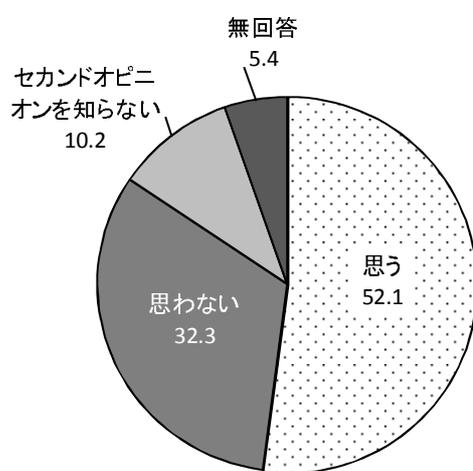
問7 セカンドオピニオンの必要性

(7) 他の医師の意見（セカンドオピニオン）は必要だと思いますか。【○はひとつだけ】

セカンドオピニオンの必要性については、「思う」が52.1%で、「思わない」が32.3%となっており、前者は後者の約1.6倍となっている。

なお、「セカンドオピニオンを知らない」が10.2%と約1割を占めている。

【図 2-2-6 セカンドオピニオンの必要性】



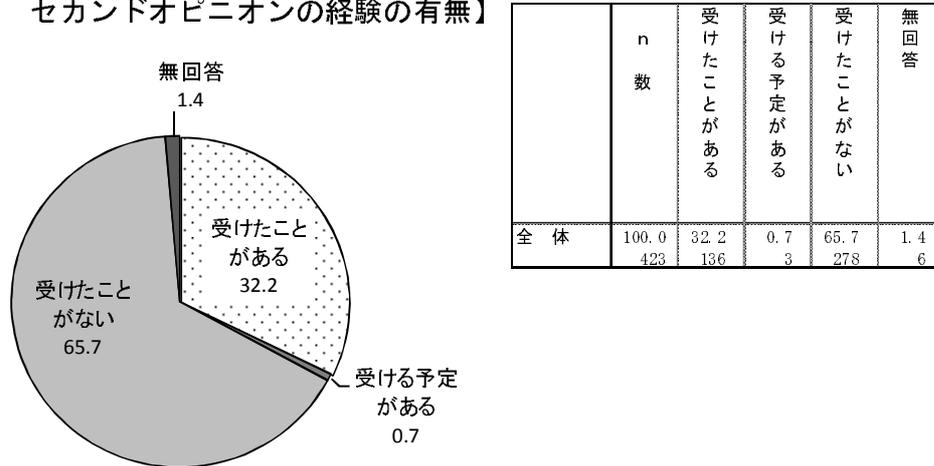
	n	思う	思わない	知らない	セカンドオピニオンを	無回答
全体	100.0 812	52.1 423	32.3 262	10.2 83		5.4 44

問8 セカンドオピニオンの経験の有無

(8) (7) で「1. 思う」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンは必要だと思うと回答した人のセカンドオピニオンの経験の有無については、「受けたことがない」が65.7%と最も高く、次いで「受けたことがある」が32.2%、「受ける予定がある」が0.7%の順となっている。

【図 2-2-7 セカンドオピニオンの経験の有無】

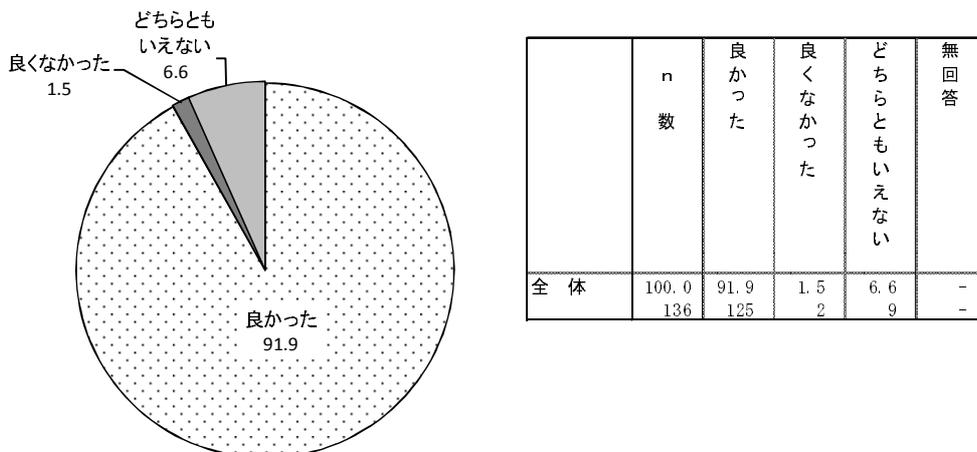


問9 セカンドオピニオンの満足度

(9) (8) で「1. 受けたことがある」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けて良かったと思いますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンを受けたことがある人の満足度は、「良かった」が91.9%と9割強となっており、「良くなかった」は1.5%となっている。

【図 2-2-8 セカンドオピニオンの満足度】



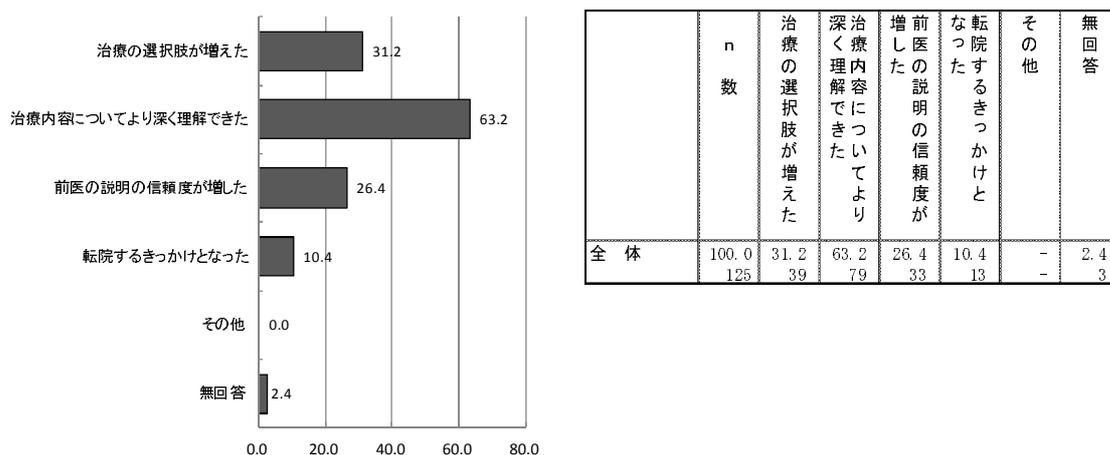
問 10 セカンドオピニオンを受けて良かった点

(10) (9) で「1. 良かった」と回答された方にお伺いします。

セカンドオピニオンを受けてどのような点が良かったですか。【〇はいくつでも】

セカンドオピニオンを受けて良かったと回答した人の良かった点については、「治療内容についてより深く理解できた」が63.2%と最も高く、次いで「治療の選択肢が増えた」が31.2%、「前医の説明の信頼度が増した」が26.4%の順となっている。

【図 2-2-9 セカンドオピニオンを受けて良かった点】（複数回答）



問 11 セカンドオピニオンを受けなかった理由

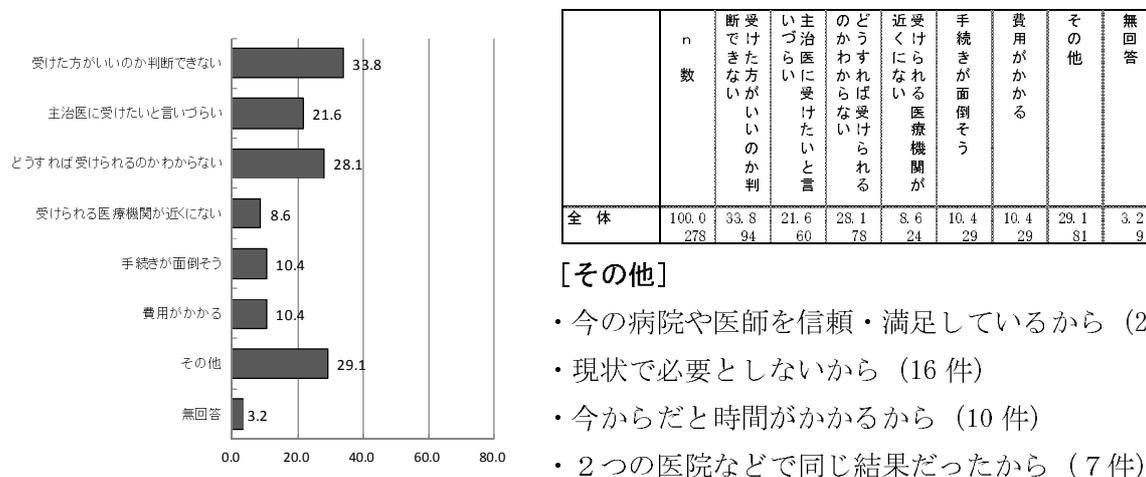
(11) (8) で「3. 受けたことがない」と回答された方にお伺いします。

セカンドオピニオンを必要だと思うが、受けなかった理由は何ですか。

【〇はいくつでも】

セカンドオピニオンを受けなかったと回答した人の受けなかった理由については、「受けた方がいいのか判断できない」が33.8%と最も高く、次いで「どうすれば受けられるのかわからない」が28.1%、「主治医に受けたいと言いつらい」が21.6%の順となっている。

【図 2-2-10 セカンドオピニオンを受けなかった理由】（複数回答）



【その他】

- ・今の病院や医師を信頼・満足しているから（21件）
- ・現状で必要としないから（16件）
- ・今からだと時間がかかるから（10件）
- ・2つの医院などで同じ結果だったから（7件）
- ・検査や手術など色々つらいことがあるから（3件）
- ・受けたくないから（1件）

問 12 現在の心身の状態

(12) 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

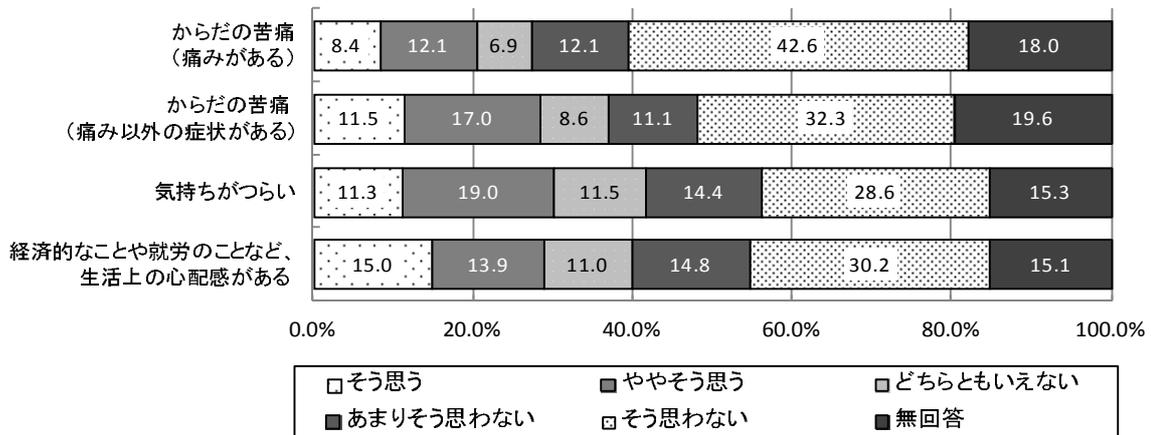
からだの苦痛（痛みがある）については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）は、20.5%で、一方、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は54.7%となっており、後者は前者の約2.7倍となっている。

からだの苦痛（痛み以外の症状）については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）は、28.5%で、一方、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は43.4%となっており、後者は前者の約1.5倍となっている。

気持ちがつらいについては、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）は、30.3%で、一方、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は43.0%となっており、後者は前者の約1.4倍となっている。

経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があるについては、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）は、28.9%で、一方、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は45.0%となっており、後者は前者の約1.6倍となっている。

【図 2-2-11 現在の心身の状態】



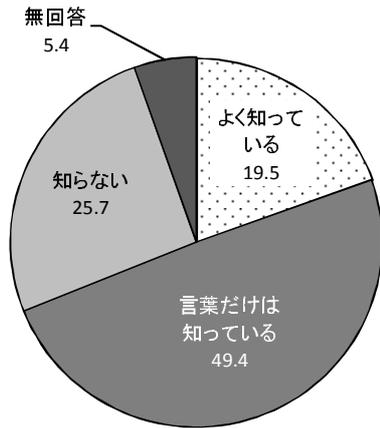
	n	そう 思う	やや そう 思う	な い ち ら と も い え	な い あ ま り そ う 思 わ	そ う 思 わ な い	無 回 答
からだの苦痛 （痛みがある）	100.0 812	8.4 68	12.1 98	6.9 56	12.1 98	42.6 346	18.0 146
からだの苦痛 （痛み以外の症状がある）	100.0 812	11.5 93	17.0 138	8.6 70	11.1 90	32.3 262	19.6 159
気持ちがつらい	100.0 812	11.3 92	19.0 154	11.5 93	14.4 117	28.6 232	15.3 124
経済的なことや就労のこと など、生活上の心配感がある	100.0 812	15.0 122	13.9 113	11.0 89	14.8 120	30.2 245	15.1 123

問 13 緩和ケアの認知度

(13) がん医療における緩和ケアとは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげることですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていますか。
【○はひとつだけ】

緩和ケアの認知度については、「言葉だけは知っている」が49.4%と最も高く、次いで「知らない」が25.7%、「よく知っている」が19.5%の順となっている。

【図 2-2-12 緩和ケアの認知度】



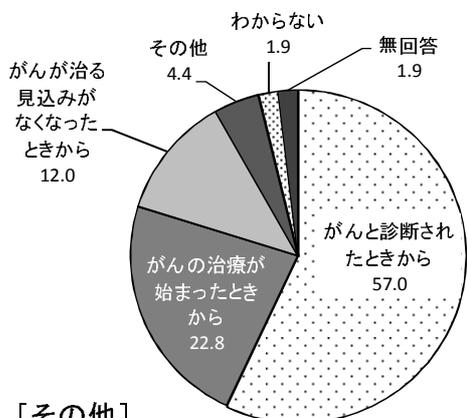
	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
全 体	100.0 812	19.5 158	49.4 401	25.7 209	5.4 44

問 14 緩和ケアを開始すべき時期の認識

(14) (13) で「1.よく知っている」と回答された方にお伺いします。
あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

緩和ケアをよく知っているという回答のあった人の緩和ケアを開始すべき時期の認識については、「がんと診断されたときから」が57.0%と最も高く、次いで「がんの治療が始まったときから」が22.8%、「がんが治る見込みがなくなったときから」が12.0%の順となっている。

【図 2-2-13 緩和ケアを開始すべき時期の認識】



	n	がんと診断されたときから	がんの治療が始まったときから	がんが治る見込みがなくなったときから	その他	わからない	無回答
全 体	100.0 158	57.0 90	22.8 36	12.0 19	4.4 7	1.9 3	1.9 3

【その他】

- ・痛みが出たとき (2件)
- ・本人が必要と感じたとき (1件)
- ・その人によって違う (1件)

問 15-1 緩和ケアの経験の有無

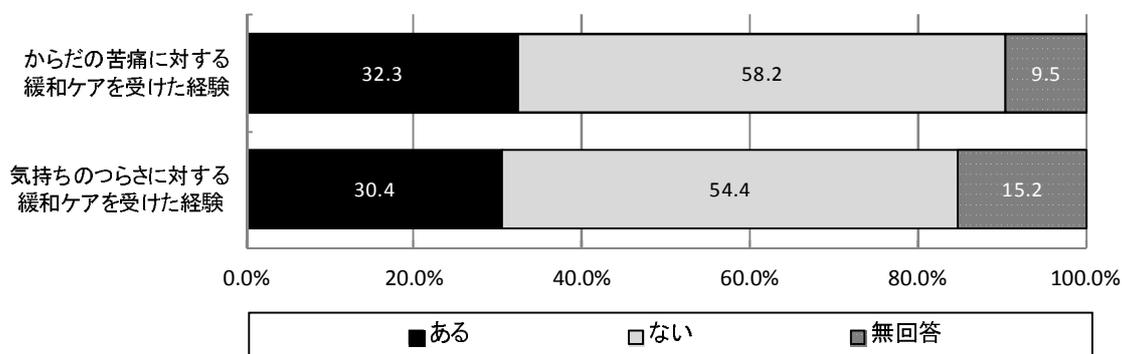
(15) (13) で「1.よく知っている」と回答された方にお伺いします。
現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験の有無、緩和ケアの提供や症状の改善についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

(15) -1 緩和ケアを受けた経験はありますか。
 【からだの苦痛、気持ちのつらさについて、それぞれ○はひとつだけ】

緩和ケアをよく知っている人のからだの苦痛に対する緩和ケアを受けた経験については、「ある」が32.3%、「ない」が58.2%で後者は前者の約1.8倍となっている。

気持ちのつらさに対する緩和ケアを受けた経験については、「ある」が30.4%、「ない」が54.4%で後者は前者の約1.8倍となっている。

【図 2-2-14 緩和ケアの経験の有無】



	n	ある	ない	無回答
	数			
からだの苦痛に対する緩和ケアを受けた経験	100.0 158	32.3 51	58.2 92	9.5 15
気持ちのつらさに対する緩和ケアを受けた経験	100.0 158	30.4 48	54.4 86	15.2 24

問 15-2 緩和ケアの提供・症状の改善等

(15) -2 (15) -1で「ある」と回答された方にお伺いします。
 緩和ケアは希望に応じてすぐに提供されましたか。また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

□からだの苦痛に対して

からだの苦痛に対して緩和ケアを受けた人のケアの対応が早かったかについては、「そう思う」が56.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」が25.5%、「どちらとも言えない」が13.7%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）は82.4%で8割強となっている。

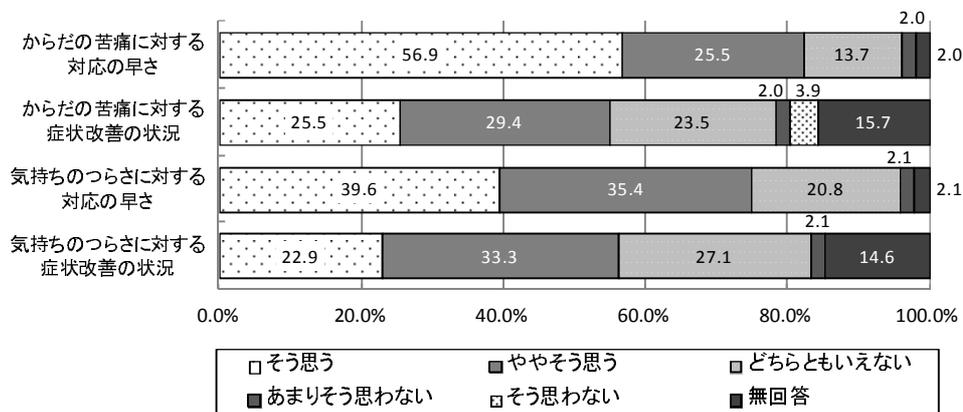
また、症状が改善したかについては、「ややそう思う」が29.4%と最も高く、次いで「そう思う」が25.5%、「どちらとも言えない」が23.5%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）は54.9%となっている。

□気持ちのつらさに対して

気持ちのつらさに対して緩和ケアを受けた人のケアの対応が早かったかについては、「そう思う」が39.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が35.4%、「どちらとも言えない」が20.8%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）は75.0%となっている。

また、症状が改善したかについては、「ややそう思う」が33.3%と最も高く、次いで、「どちらとも言えない」が27.1%、「そう思う」が22.9%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）は56.2%となっている。

【図 2-2-15 緩和ケアの提供・症状の改善等】



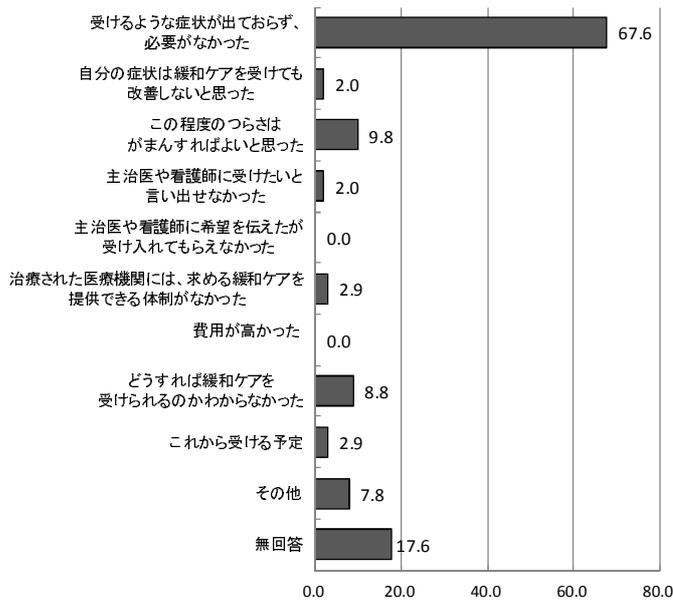
	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
からだの苦痛に対する対応の早さ	100.0 51	56.9 29	25.5 13	13.7 7	2.0 1	-	2.0 1
からだの苦痛に対する症状改善の状況	100.0 51	25.5 13	29.4 15	23.5 12	2.0 1	3.9 2	15.7 8
気持ちのつらさに対する対応の早さ	100.0 48	39.6 19	35.4 17	20.8 10	2.1 1	-	2.1 1
気持ちのつらさに対する症状改善の状況	100.0 48	22.9 11	33.3 16	27.1 13	2.1 1	-	14.6 7

問 16 緩和ケアを受けなかった理由

(16) (15) -1 で「からだの苦痛」または「気持ちのつらさ」のいずれかで、緩和ケアを受けた経験が「2. ない」と回答された方にお伺いします。
 緩和ケアを受けなかった理由は何ですか。【〇はいくつでも】

緩和ケアを受けなかった理由については、「受けるような症状が出ておらず必要がなかった」が67.6%と最も高く、次いで、「この程度のつらさはがまんすればよいと思った」が9.8%、「どうすれば緩和ケアを受けられるのかわからなかった」が8.8%の順となっている。

【図 2-2-16 緩和ケアを受けなかった理由】（複数回答）



	n	受けるような症状が出ておらず、必要がなかった	自分の症状は、緩和ケアを受けても改善しなかった	この程度のつらさは、がまんすればよいと思った	主治医や看護師に受けたいと言えなかった	主治医や看護師に希望を伝えたが受け入れてもらえなかった	治療された医療機関には、求める緩和ケアを提供できなかった	費用が高かった	どうすれば緩和ケアを受けられるのかわからなかった	これから受ける予定	その他	無回答
全体	100.0 102	67.6 69	2.0 2	9.8 10	2.0 2	- -	2.9 3	- -	8.8 9	2.9 3	7.8 8	17.6 18

【その他】

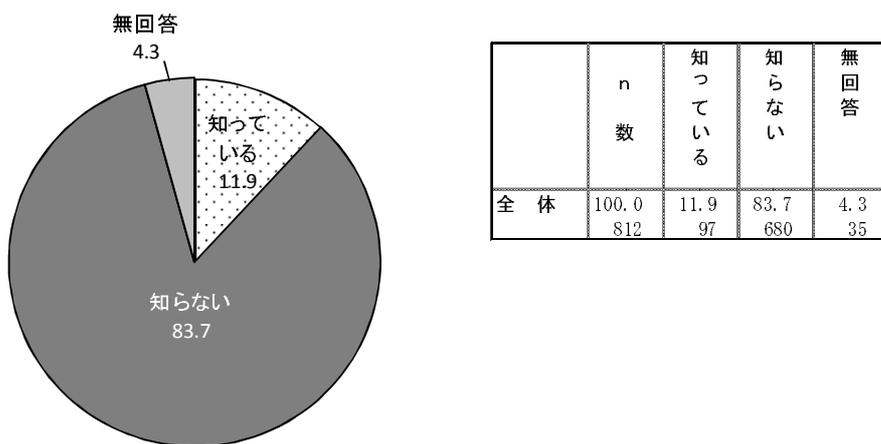
- ・ 医師に委ねたから（3件）
- ・ 今、必要としないから（2件）
- ・ 緩和ケアのことを話せなかったから（2件）
- ・ 専門の科がなかったから（1件）

問 17 「がん患者さんのための患者必携」の認知度

(17) 奈良県が緩和ケアの普及啓発を目的に発行している「がん患者さんのための患者必携」を知っていますか。【○はひとつだけ】

「がん患者さんのための患者必携」の認知度については、「知らない」が83.7%と最も高く、「知っている」が11.9%となっている。

【図 2-2-17 「がん患者さんのための患者必携」の認知度】



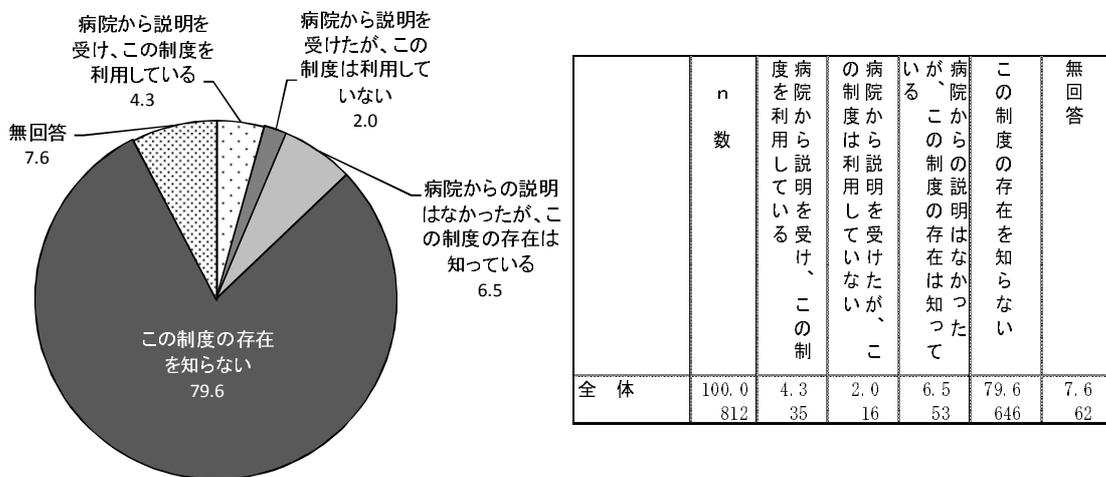
2-3. 今後の治療・療養について

問 18 「がん地域連携クリティカルパス」等の認知度

(18) がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医とかかりつけ医が二人で連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス(注参照)」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

「がん地域連携クリティカルパス」等の認知度については、「この制度の存在を知らない」が79.6%と最も高く8割弱となっている。一方、「病院から説明を受け、この制度を利用している」が4.3%にとどまっている。

【図2-3-1 「がん地域連携クリティカルパス」等の認知度】



【注】がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医と地域のかかりつけ医が二人で連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などが利用されている。

問 19-1 「がん地域連携クリティカルパス」等の制度の利用又は不利用の理由

(19-1) (18) で 1, 2 と回答された方にお伺いします。
 この制度を利用している（または利用していない）理由は何ですか。
 【〇はひとつだけ】

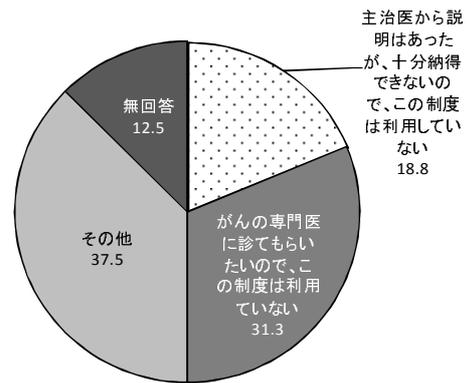
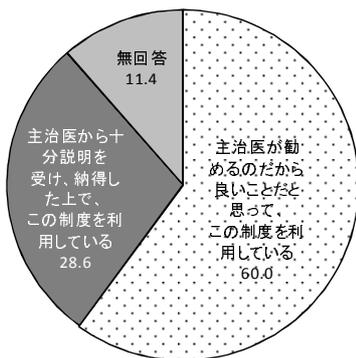
病院から「がん地域連携クリティカルパス」等の制度説明を受け利用している人の利用理由については、「主治医が勧めたのだから良いことだと思って、この制度を利用している」が 60.0%、「主治医から十分説明を受け、納得した上で、この制度を利用している」が 28.6% となっている。

一方、説明を受けたが利用していない人の非利用理由については、「がんの専門医に診てほしいので、この制度は利用していない」が 31.3%、「主治医からの説明があったが、十分納得できないので、この制度は利用していない」と「必要としない」([その他]の「必要としないから」の3件) がいずれも 18.8% となっている。

【図 2-3-2 「がん地域連携クリティカルパス」等の制度の利用又は不利用の理由】

〔 問(18) で「1. 利用している」と回答した人 (該当数 35 人) 〕

〔 問(18) で「2. 利用していない」と回答した人 (該当数 16 人) 〕



	n 数	主治医から十分説明を受け、納得した上で、この制度を利用している	主治医が勧めるのだから良いことだと思って、この制度を利用している	主治医からの説明があったが、十分納得できないので、この制度は利用していない	その他	無回答
全体	100.0 35	60.0 21	28.6 10	—	—	11.4 4

	n 数	主治医からの説明があったが、十分納得できないので、この制度は利用していない	がんの専門医に診てほしいので、この制度は利用していない	その他	無回答
全体	100.0 16	18.8 3	31.3 5	37.5 6	12.5 2

〔その他〕

- ・必要としないから (3件)
- ・医師に任せているから (1件)
- ・かかりつけ医がないから (1件)
- ・治療に専念しているから (1件)

問 19-2 制度を勧められた場合の考え

(19-2) (18) で、3, 4 と回答された方にお伺いします。

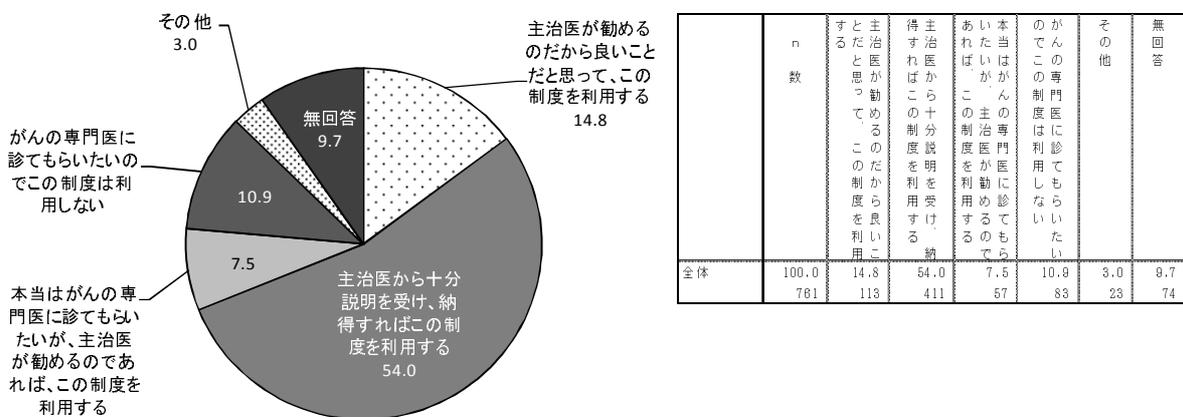
もし、がん地域連携クリティカルパスの利用について主治医より勧められた場合、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

「がん地域連携クリティカルパス」等の制度について病院から説明がなかった人や制度を知らない人が、この制度を勧められた場合の考えについては、「主治医から十分説明を受け、納得すれば制度を利用する」が54.0%と最も高く、5割強となっている。

次いで「主治医が勧めるのだから良いことだと思って、この制度を利用する」が14.8%、「がんの専門医にみてもらいたいので、この制度は利用しない」が10.9%となっている。

“この制度を利用する”（選択肢の1～3の合計）は76.3%となっている。

【図 2-3-3 制度を勧められた場合の考え】



〔その他〕

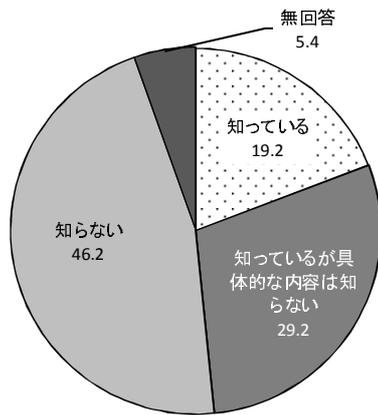
- ・かかりつけ医がない（4件）
- ・利用するかは医師・病院による（4件）
- ・今の病院や治療などで満足のため、不要（3件）
- ・必要性を感じない（3件）

問 20 「在宅緩和ケア」の認知度

(20) 在宅緩和ケア（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

「在宅緩和ケア」の認知度については、「知らない」が46.2%と最も高く、次いで「知っているが、具体的な内容は知らない」が29.2%、「知っている」が19.2%の順となっている。

【図 2-3-4 「在宅緩和ケア」の認知度】



	n 数	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
全 体	100.0 812	19.2 156	29.2 237	46.2 375	5.4 44

（注）在宅緩和ケア：在宅緩和ケアを専門とする医師やかかりつけ医の往診により在宅で緩和ケアや医療を受けること。

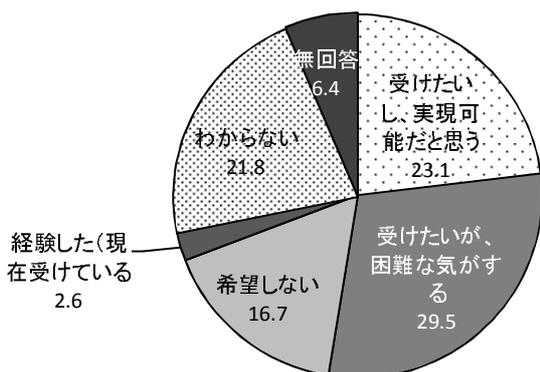
問 21 「在宅緩和ケア」への考え

(21) (20) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
在宅緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

「在宅緩和ケア」を知っている人の受けることへの考えについては、「受けたいが、困難な気がする」が29.5%と最も高く、次いで「受けたいし、実現可能だと思う」が23.1%、「わからない」が21.8%の順となっている。

一方、「経験した（現在受けている）」が2.6%とわずかであり、また、「希望しない」は16.7%と2割弱となっている。

【図 2-3-5 「在宅緩和ケア」への考え】



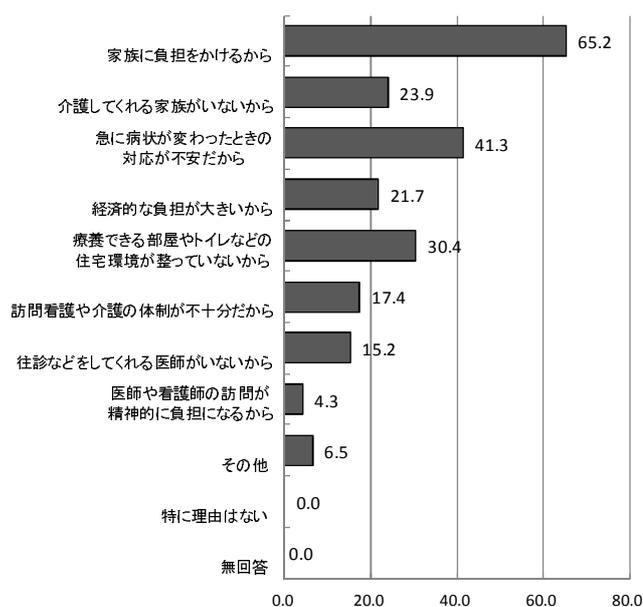
	n 数	受けたいし、実現可能だと思う	受けたいが、困難な気がする	希望しない	経験した（現在受けている）」	わからない	無回答
全 体	100.0 156	23.1 36	29.5 46	16.7 26	2.6 4	21.8 34	6.4 10

問 22 「在宅緩和ケア」が困難だと思う理由

(22) (21) で「2. 受けたいが、困難な気がする」と回答された方にお伺いします。
困難だと思う理由は何ですか。【〇はいくつでも】

「在宅緩和ケア」を受けたいが、困難な気がする人の困難だと思う理由については、「家族に負担をかけるから」が 65.2%で最も高く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 41.3%、「療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから」が 30.4%の順となっている。

【図 2-3-6 在宅緩和ケアが困難だと思う理由】（複数回答）



	n	家族に負担をかけるから	介護してくれる家族がないから	急に病状が変わったときの対応が不安だから	経済的な負担が大きいから	療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから	訪問看護や介護の体制が不十分だから	往診などをしてくれる医師が少ないから	精神的に看護師の訪問が負担になるから	その他	特に理由はない	無回答
全体	100.0 46	65.2 30	23.9 11	41.3 19	21.7 10	30.4 14	17.4 8	15.2 7	4.3 2	6.5 3	- -	- -

〔その他〕

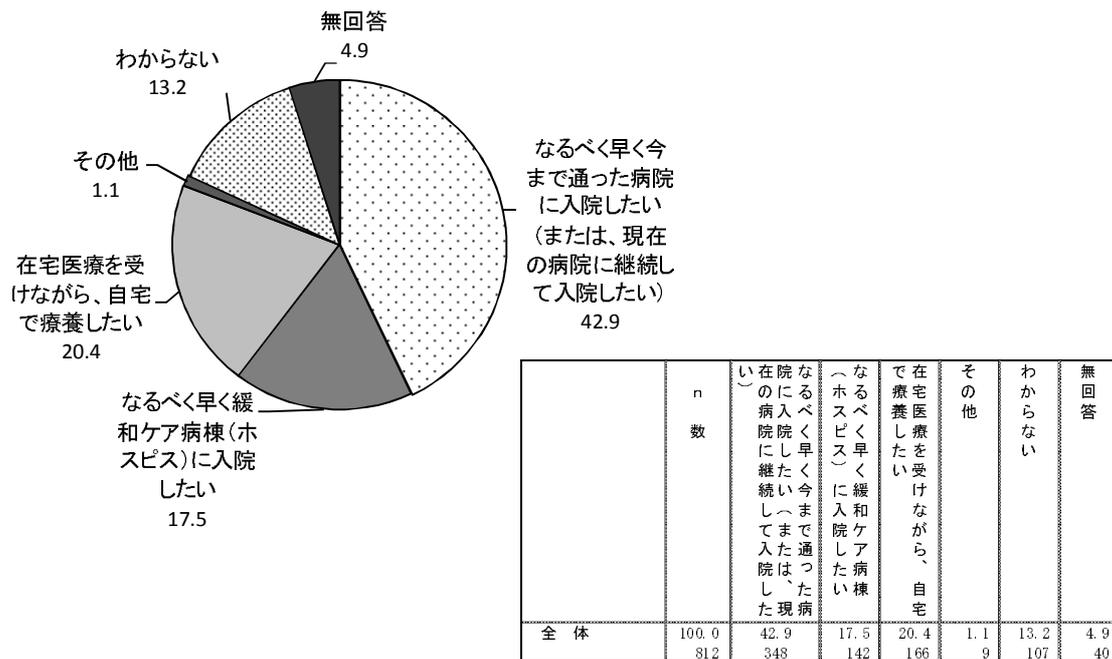
- ・同居者も病気の者がいるから（1件）
- ・病院と家が離れているから（1件）
- ・医師に以前見離されたから（1件）

問 23 希望する療養場所

(23) もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるとすれば、どこで過ごしたいと思いますか。【○はひとつだけ】

希望する療養場所については、「なるべく早く今まで通った病院に入院したい」が42.9%で最も高く、次いで「在宅医療を受けながら、自宅で療養したい」が20.4%、「なるべく早く緩和ケア病棟（ホスピス）に入院したい」が17.5%の順となっている。

【図 2-3-7 希望する療養場所】



[その他]

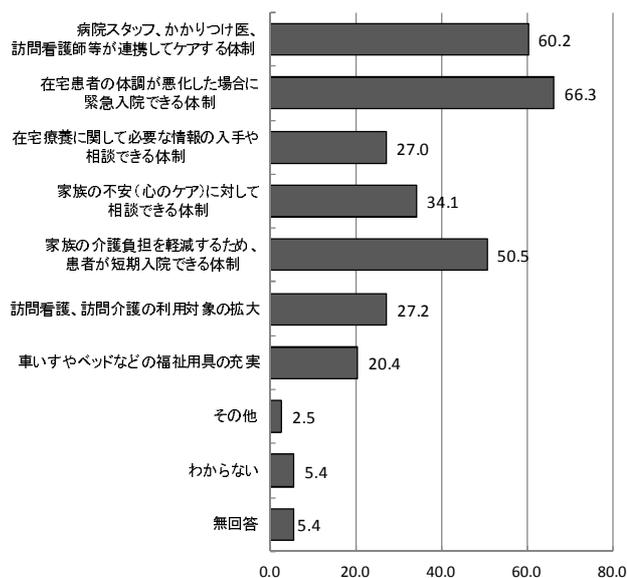
- ・今は考えられない (2件)
- ・そのときにならないとわからない (1件)
- ・受け入れて頂ける病院 (1件)

問 24 自宅で療養するために必要なこと

(24) 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。
【〇はいくつでも】

安心して自宅で療養するために必要なことについては、「在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制」が66.3%で最も高く、次いで「病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制」が60.2%、「家族の介護負担を軽減するために、患者が短期入院できる体制」が50.5%の順となっている。

【図 2-3-8 自宅で療養するために必要なこと】(複数回答)



	n 数	て ケ ア す る 体 制	病 院 ス タ フ 、 か か り つ け 医 、 訪 問 看 護 師 等 が か か り つ け	場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た	報 告 の 入 手 や 相 談 で き る 体 制	家 族 の 不 安 (心 の ケ ア) に 対 し て 相 談 で き る 体 制	家 族 の 介 護 負 担 を 軽 減 す る た め に 患 者 が 短 期 入 院 で き る 体 制	訪 問 看 護 、 訪 問 介 護 の 利 用 対 象 の 拡 大	用 具 の 充 実	車 い す や ベ ッ ド な ど の 福 祉	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 812	60.2 489	66.3 538	27.0 219	34.1 277	50.5 410	27.2 221	20.4 166	2.5 20	5.4 44	5.4 44			

【その他】

- ・費用負担の軽減 (4件)
- ・介護してくれる人 (4件)
- ・家族のケア (2件)
- ・かかりつけ医の紹介制度 (1件)

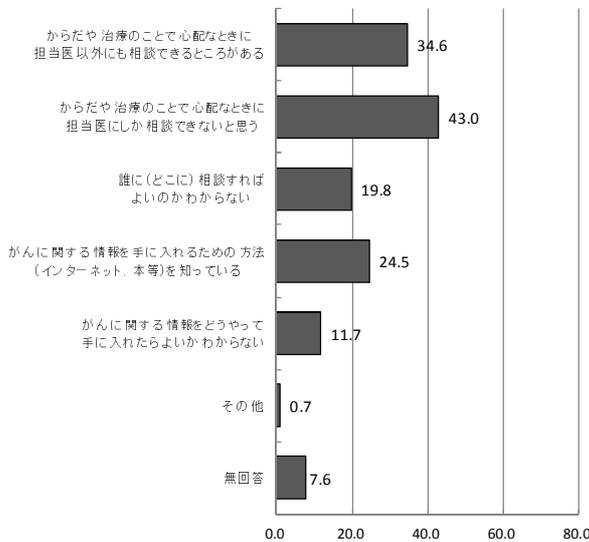
2-4 相談支援・情報提供について

問 25 がん医療に関する相談支援及び情報提供

(25) がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。【〇はいくつでも】

がん医療に関する相談支援及び情報提供については、「からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか相談できないと思っている」が43.0%と最も高く、次いで「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が34.6%、「がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている」が24.5%の順となっている。

【図 2-4-1 がん医療に関する相談支援及び情報提供】（複数回答）



	n	ろ外心からうし心からいれ誰に等(に)ががよが							
全体	100.0 812	34.6 281	43.0 349	19.8 161	24.5 199	11.7 95	0.7 6	7.6 62	

[その他]

- ・担当医に相談・指示に従う（3件）
- ・先のことはあまり考えていない（1件）

問 26 がんに関する情報の充実度

(26) あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。【それぞれ○はひとつだけ】

がんの治療方法についての情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が31.9%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が28.6%で“思う”が3.3ポイント上回っている。

病院の診療体制や治療状況についての情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が25.0%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が34.4%で“思わない”が9.4ポイント上回っている。

緩和ケアについての情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が39.0%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が18.1%で、前者は後者の約2.2倍となっている。

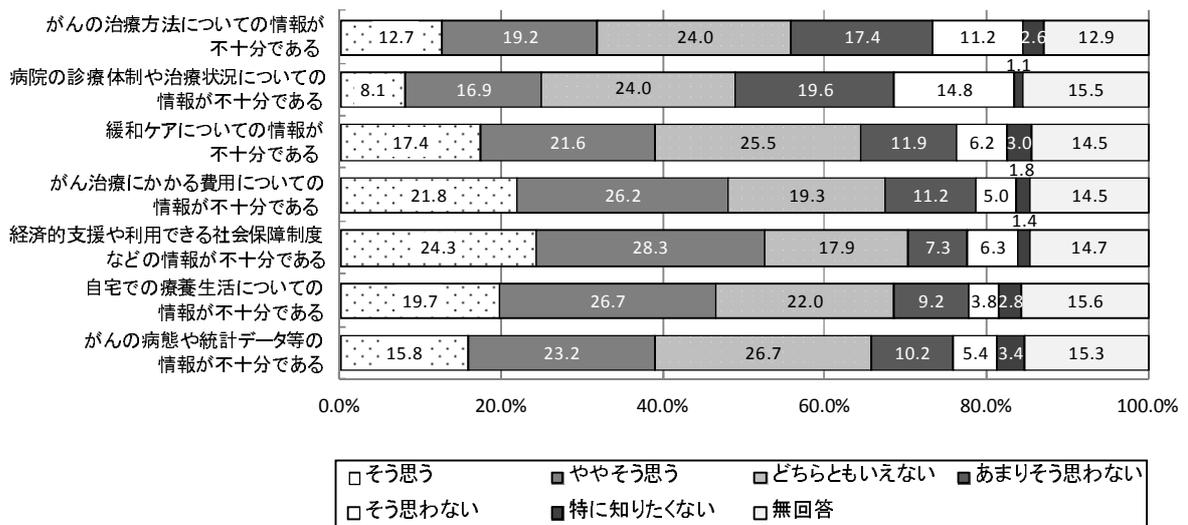
がん治療にかかる費用についての情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が48.0%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が16.2%で、前者は後者の約3.0倍となっている。

経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が52.6%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が13.6%で、前者は後者の約3.9倍となっている。

自宅での療養生活についての情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が46.4%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が13.0%で、前者は後者の約3.6倍となっている。

がんの病態や統計データ等の情報不足については、“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が39.0%、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が15.6%で、前者は後者の約2.5倍となっている。

【図 2-4-2 がんに関する情報の充実度】

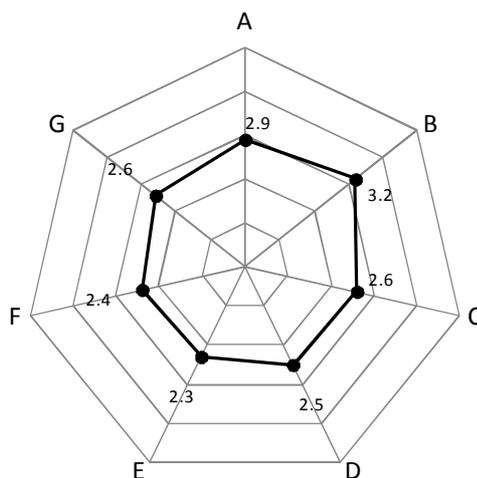


	n 数	そう 思う	やや そう 思う	ど ちら とも いえ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	特 に 知 り た く な い	無 回 答
がんの治療方法についての情報不足	100.0 S12	12.7 103	19.2 156	24.0 195	17.4 141	11.2 91	2.6 21	12.9 105
病院の診療体制や治療状況についての情報不足	100.0 S12	8.1 66	16.9 137	24.0 195	19.6 159	14.8 120	1.1 9	15.5 126
緩和ケアについての情報不足	100.0 S12	17.4 141	21.6 175	25.5 207	11.9 97	6.2 50	3.0 24	14.5 118
がん治療にかかる費用についての情報不足	100.0 S12	21.8 177	26.2 213	19.3 157	11.2 91	5.0 41	1.8 15	14.5 118
経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足についての情報不足	100.0 S12	24.3 197	28.3 230	17.9 145	7.3 59	6.3 51	1.4 11	14.7 119
自宅での療養生活についての情報不足	100.0 S12	19.7 160	26.7 217	22.0 179	9.2 75	3.8 31	2.8 23	15.6 127
がんの病態や統計データ等の情報不足	100.0 S12	15.8 128	23.2 188	26.7 217	10.2 83	5.4 44	3.4 28	15.3 124

情報不足について尋ねた7つの項目についてみると、『E：経済的な支援や利用できる社会保障制度など情報不足』が2.3となっており、「そう思う」程度が最も高くなっている。

一方、『B：病院の診療体制や治療状況についての情報不足』が3.2となっており、「そう思わない」程度が最も高くなっている。

【図 2-4-3 項目別 がんに関する情報の充実度比較】



凡例

- A：がんの治療方法についての情報不足
- B：病院の診療体制や治療状況についての情報不足
- C：緩和ケアについての情報不足
- D：がん治療にかかる費用の情報不足
- E：経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足
- F：自宅での療養生活の情報不足
- G：がんの病態や統計データ等の情報不足

点数配点表

- 5：そう思わない
- 4：あまりそう思わない
- 3：どちらともいえない
- 2：ややそう思う
- 1：そう思う

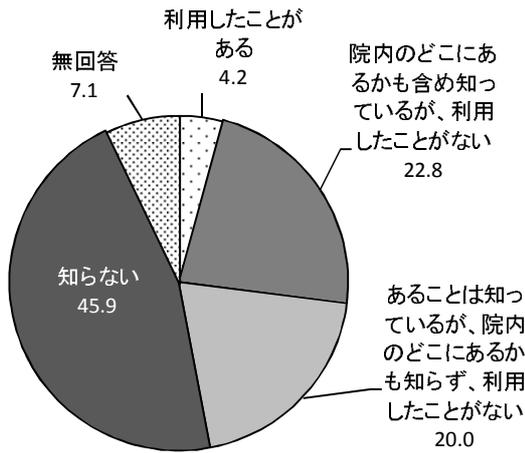
$$\text{がんに関する情報の必要度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「特に知りたくない」を除いた有効回答数}}$$

問 27 相談支援センターの利用の有無

(27) がん診療連携拠点病院等内に設置されているがんの「相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

相談支援センターの利用の有無については、「知らない」が45.9%で最も高く、次いで「院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない」が22.8%、「あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない」が20.0%となっている。一方、「利用したことがある」は4.2%にとどまっている。

【図 2-4-4 相談支援センターの利用の有無】



	n 数	利用したことがある	院内のどこにあるが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
全体	100.0 812	4.2 34	22.8 185	20.0 162	45.9 373	7.1 58

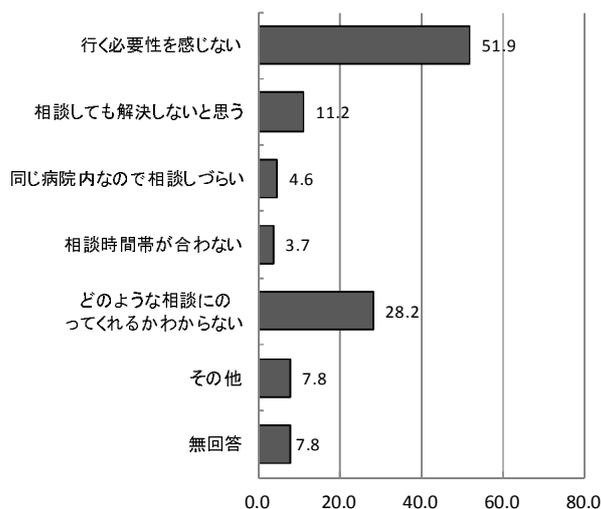
（注）相談支援センター：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「相談支援センター」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、県立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院に設置。

問 28 相談支援センターを利用しなかった理由

(28) (27) で 2, 3 の「利用したことがない」と回答された方にお伺いします。
 相談支援センターを利用しなかった理由は何ですか。【〇はいくつでも】

相談支援センターを利用したことがない人の利用しなかった理由については、「行く必要性を感じない」が 51.9%で最も高く、次いで「どのような相談にのってくれるのかわからない」が 28.2%、「相談しても解決しないと思う」が 11.2%の順となっている。

【図 2-4-5 相談支援センターを利用しなかった理由】（複数回答）



	n 数	行く 必要 性 を 感 じ な い	相 談 し て も 解 決 し な い と 思 う	同 じ 病 院 内 な の で 相 談 し づ ら い	相 談 時 間 帯 が 合 わ な い	ど の よ う な 相 談 に の つ て く れ る の か わ ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 347	51.9 180	11.2 39	4.6 16	3.7 13	28.2 98	7.8 27	7.8 27

【その他】

- ・今のところ必要ないから（6件）
- ・担当医から説明がある・担当医を信頼しているから（4件）
- ・利用まで至らなかったから（3件）
- ・症状が軽い・改善したから（2件）
- ・これから利用したいと思っているから（2件）
- ・行くタイミングを逃した・つかめないから（2件）

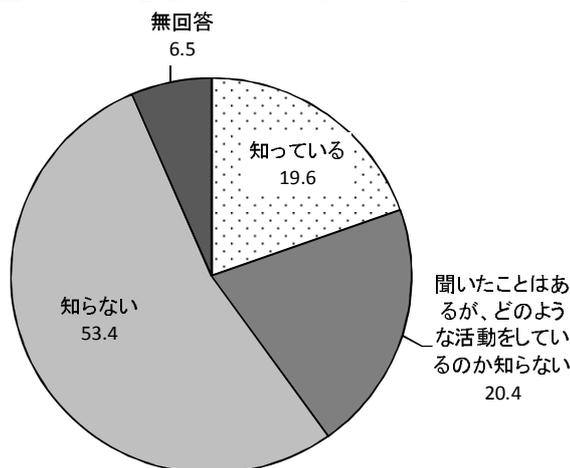
問 29 患者サロンの認知度

(29) 「患者サロン」(がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場)があることを知っていますか。【〇はひとつだけ】

患者サロンの認知度については、「知らない」が53.4%で最も高く、次いで「聞いたことがあるが、どのような活動をしているのか知らない」が20.4%となっている。

「知っている」は、19.6%と2割弱となっている。

【図 2-4-6 患者サロンの認知度】



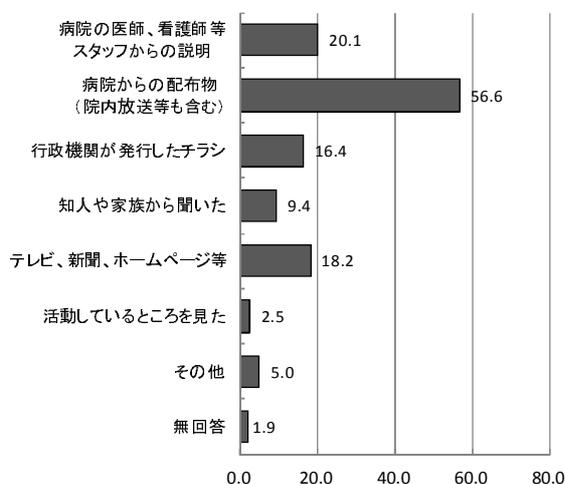
	n	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
全 体	100.0 812	19.6 159	20.4 166	53.4 434	6.5 53

問 30 患者サロンを知ったきっかけ

(30) (29) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンについて、どこで知りましたか。【〇はいくつでも】

患者サロンを知っている人の知ったきっかけについては、「病院からの配布物(院内放送等も含む)」が56.6%で最も高く、次いで「病院の医師、看護師等スタッフからの説明」が20.1%、「テレビ、新聞、ホームページ等」が18.2%の順となっている。

【図 2-4-7 患者サロンを知ったきっかけ】(複数回答)



	n	病院の医師、看護師等スタッフからの説明	病院からの配布物 (院内放送等も含む)	行政機関が発行したチラシ	知人や家族から聞いた	テレビ、新聞、ホームページ等	活動しているところを見た	その他	無回答
全 体	100.0 159	20.1 32	56.6 90	16.4 26	9.4 15	18.2 29	2.5 4	5.0 8	1.9 3

【その他】

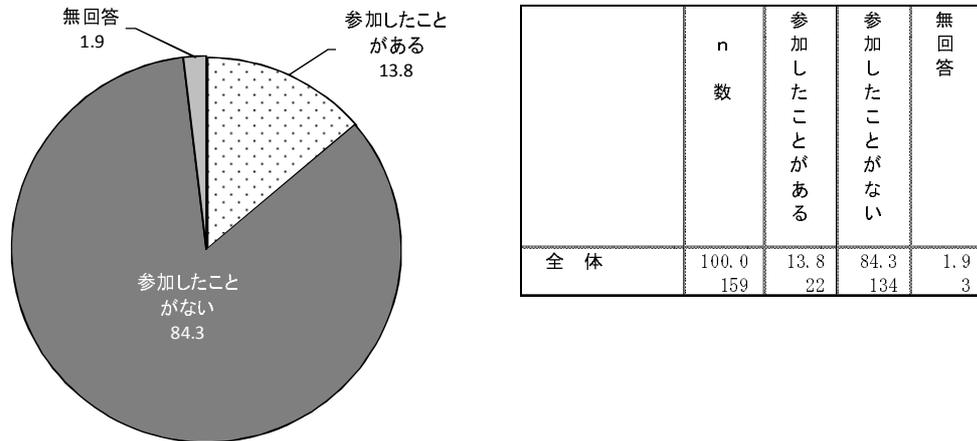
- ・病院の掲示 (2件)
- ・ピアサポーターの養成講座に参加して (1件)
- ・放射線治療に行った時 (1件)
- ・病院においてある本を見て (1件)
- ・サロン自体を発足した時 (1件)

問 31 患者サロンへの参加の有無

(31) (29) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンに参加したことがありますか。【○はひとつだけ】

患者サロンを知っている人の患者サロンへの参加については、「参加したことがある」が13.8%、「参加したことがない」が84.3%で、後者は前者の約6.1倍となっている。

【図 2-4-8 患者サロンへの参加の有無】

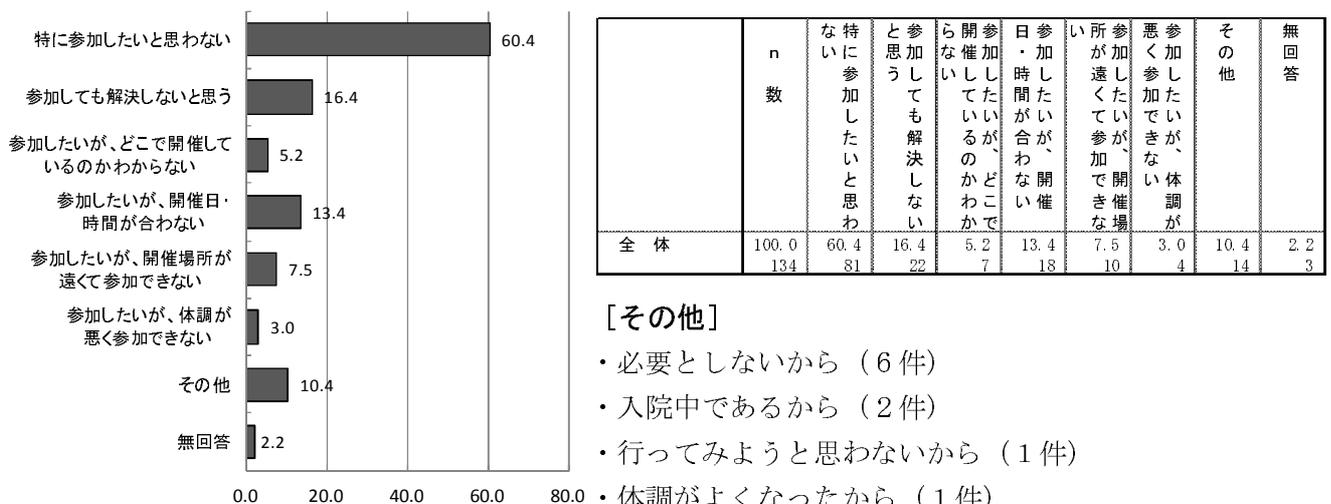


問 32 患者サロンに参加したことがない理由

(32) (31) で「2. 参加したことがない」と回答された方にお伺いします。
患者サロンに参加したことがない理由は何ですか。【○はいくつでも】

患者サロンに参加したことがない人の参加したことがない理由については、「特に参加したいと思わない」が60.4%と最も高く、次いで「参加しても解決しないと思う」が16.4%、「参加したいが、開催日・時間が合わない」が13.4%の順となっている。

【図 2-4-9 患者サロンに参加したことがない理由】（複数回答）



【その他】

- ・必要としないから（6件）
- ・入院中であるから（2件）
- ・行ってみようと思わないから（1件）
- ・体調がよくなったから（1件）
- ・診断されて間もないから（1件）
- ・医師などの日頃の会話で充分だから（1件）
- ・まだその時期ではないから（1件）
- ・若者が少ないから（1件）

2-5 治療と就労について

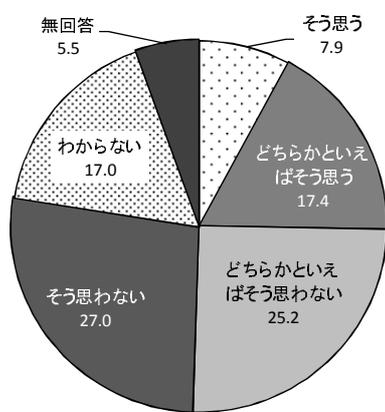
問 33 がん治療と継続就労についての認識

(33) 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。
【〇はひとつだけ】

がん治療を受けながら働きつづけられる環境だと思うかについては、「そう思わない」が27.0%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が25.2%、「どちらかといえばそう思う」が17.4%の順となっている。

“そう思わない”（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は、52.2%で約半数を占めている。

【図 2-5-1 がん治療と継続就労についての認識】



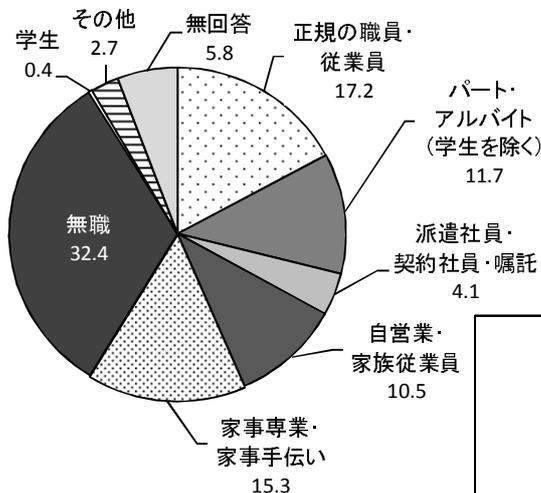
	n	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	100.0 812	7.9 64	17.4 141	25.2 205	27.0 219	17.0 138	5.5 45

問 34 がん診断時の就労状況

(34) がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断された時の就労状況については、「無職」が32.4%で最も高く、次いで「正規の職員・従業員」が17.2%、「家事専業・家事手伝い」が15.3%の順となっている。

【図 2-5-2 がん診断時の就労状況】



[その他]

- ・ 定年退職（6件）
- ・ 市町村議会議員（3件）
- ・ 年金生活者（2件）
- ・ 会社役員（1件）
- ・ 内職（1件）

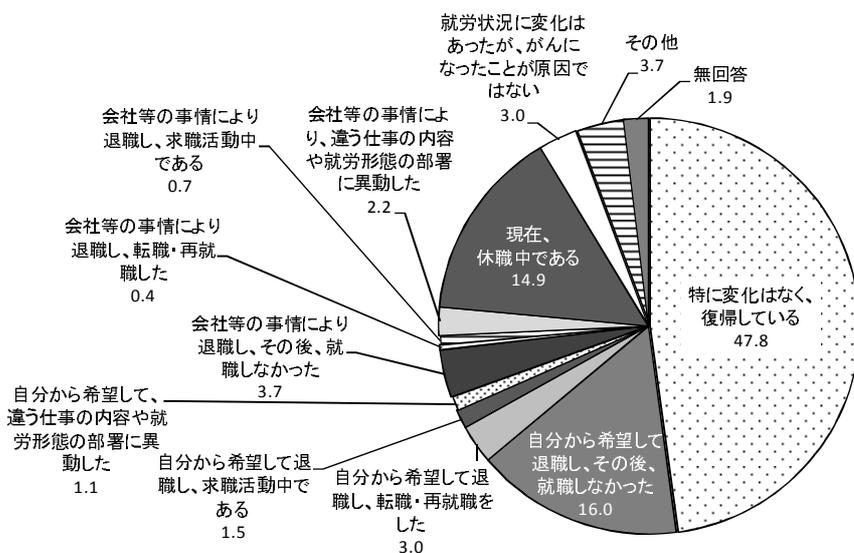
	n	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト (学 生 を 除 く)	嘱 託 ・ 派 遣 社 員 ・ 契 約 社 員	自 営 業 ・ 家 族 従 業 員	家 事 専 業 ・ 家 事 手 伝 い	無 職	学 生	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 812	17.2 140	11.7 95	4.1 33	10.5 85	15.3 124	32.4 263	0.4 3	2.7 22	5.8 47

問 35 がんによる就労状況の変化

(35) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
がんになったことが原因で、就労状況に変化がありましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者であった方（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）のがんになったことによる就労状況の変化については、「特に変化はなく、復帰している」が47.8%と最も高く、次いで「自わから希望して退職し、その後、就職しなかった」が16.0%、「現在、休職中である」が14.9%の順となっている。

【図 2-5-3 がんによる就労状況の変化】



	n	特に変化はなく、復帰している	就労状況に変化はあったが、がんになったことが原因ではない	現在、休職中である	自分から希望して退職し、その後、就職しなかった	その他	無回答
全体	100.0 268	47.8 128	3.0 8	14.9 40	16.0 43	3.7 10	1.9 5

【その他】

- ・仕事量を減らした（2件）
- ・会社が休職扱いとし、その後復帰した（1件）

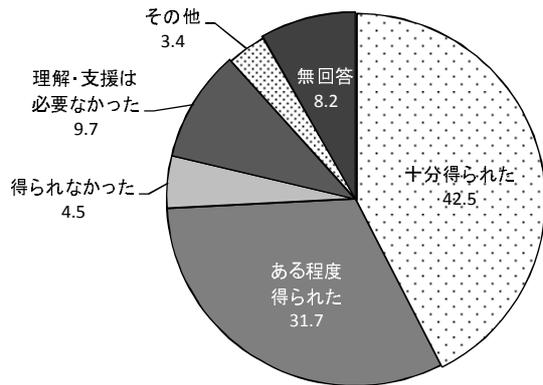
問 36 仕事の継続に関する事業主の理解・支援

(36) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。

がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者であった方（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）の仕事の継続に関する事業主の理解・支援については、「十分得られた」が 42.5%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が 31.7%、「理解・支援は必要なかった」が 9.7%の順となっている。

【図 2-5-4 仕事の継続に関する事業主の理解・支援】



	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
全体	100.0 268	42.5 114	31.7 85	4.5 12	9.7 26	3.4 9	8.2 22

【その他】

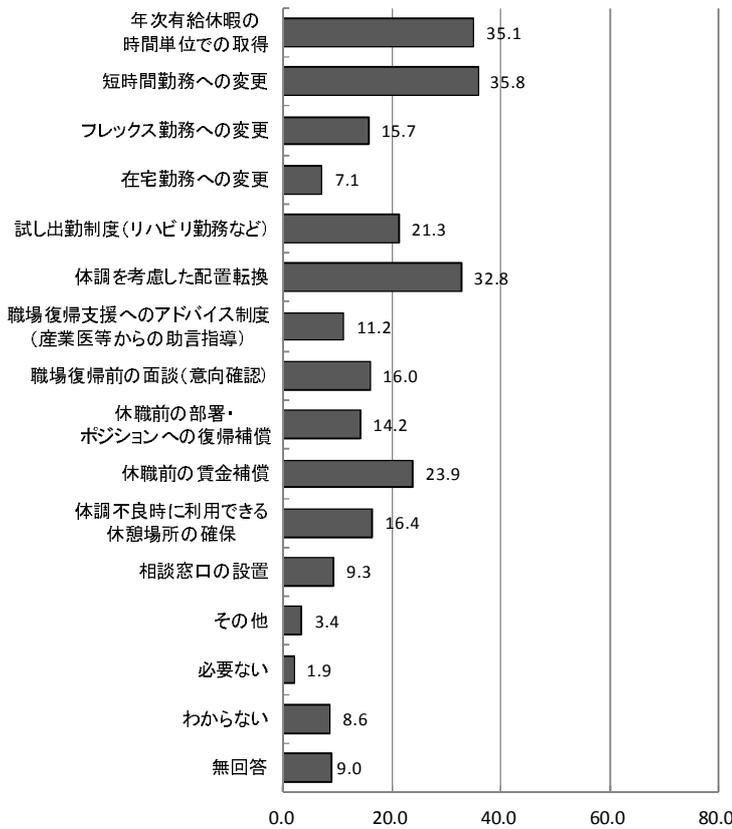
- ・事業主と話し合っていない（2件）
- ・全てを受け入れる状況でなかった（1件）

問 37 仕事を継続するために必要な対応・制度

(37) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
 仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思えますか。【〇はいくつでも】

がんと最初に診断されたときに雇用者であった方（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）の仕事を継続するために必要な対応・制度については、「短時間勤務への変更」が 35.8% で最も高く、次いで「年次有給休暇の時間単位での取得」が 35.1%、「体調を考慮した配置転換」が 32.8% の順となっている。

【図 2-5-5 仕事を継続するために必要な対応・制度】（複数回答）



	n	位年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	更フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	り試し出勤制度(リハビリ勤務など)	換体調を考慮した配置転換	からの助言指導(産業医等)	職場復帰支援へのアドバイス制度(産業医等)	向確認)	シ職前の部署・ポジションへの復帰補償	休職前の賃金補償	る体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
全 体	100.0 268	35.1 94	35.8 96	15.7 42	7.1 19	21.3 57	32.8 88	11.2 30	16.0 43	14.2 38	23.9 64	16.4 44	9.3 25	3.4 9	1.9 5	8.6 23	9.0 24	

【その他】

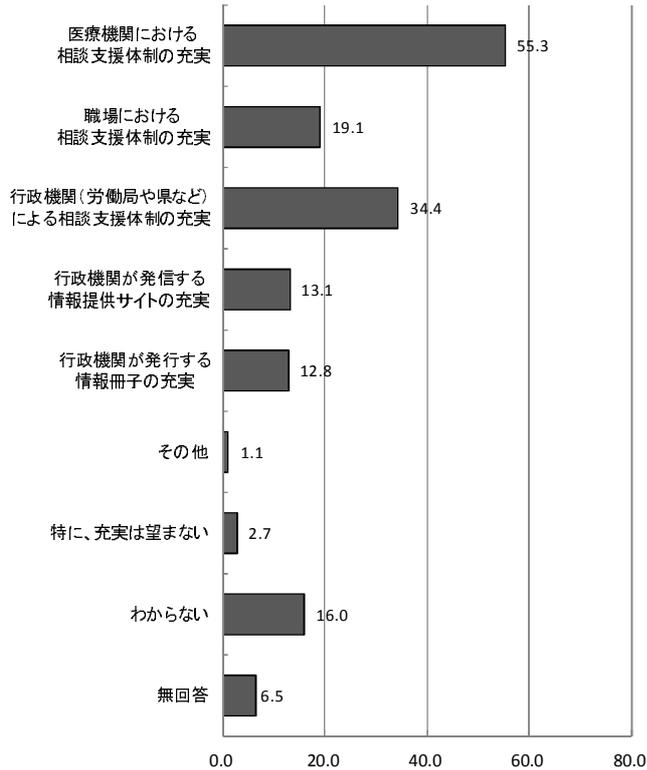
- ・職場の病気に対する考え方（2件）
- ・非正規雇用では、対応ほぼ不可能（1件）

問 38 就労等の情報提供・相談支援に望むこと

(38) 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

就労等の情報提供・相談支援に望むことについては、「医療機関における相談支援体制の充実」が 55.3%で最も高く、次いで「行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実」が 34.4%、「職場における相談支援体制の充実」が 19.1%の順となっている。

【図 2-5-6 就労等の情報提供・相談支援に望むこと】（複数回答）



	n	医療機関における相談支援体制の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関(労働局や県など)による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供サイトの充実	行政機関が発行する情報冊子の充実	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
全体	100.0 812	55.3 449	19.1 155	34.4 279	13.1 106	12.8 104	1.1 9	2.7 22	16.0 130	6.5 53

【その他】

- ・相談しても困難は消えない（1件）
- ・病院と会社等との連絡体制の充実（1件）

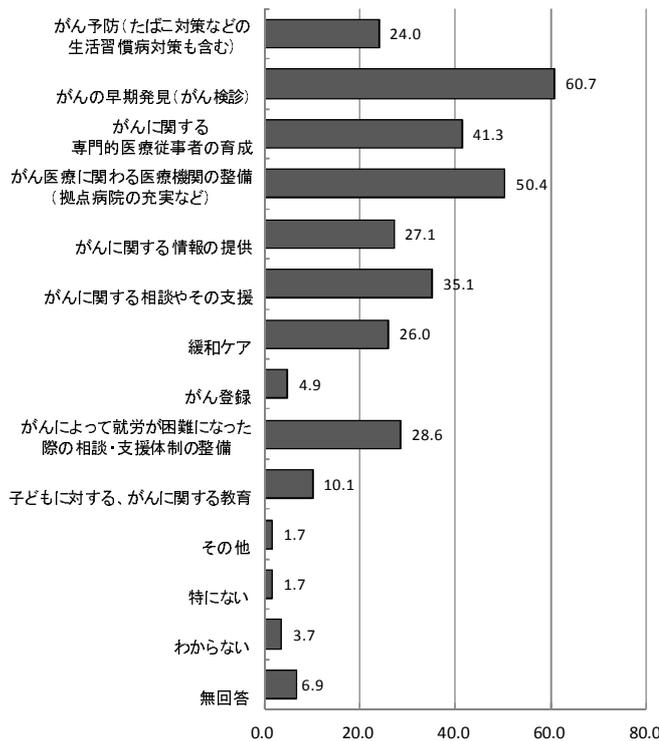
2-6. 全般的なことについて

問 39 がん対策で奈良県に望むこと

(39) がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。
【〇はいくつでも】

がん対策で奈良県に望むことについては、「がんの早期発見（がん検診）」が60.7%で最も高く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が50.4%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が41.3%の順となっている。

【図 2-6-1 がん対策で奈良県に望むこと】（複数回答）



	n	がん予防(たばこ対策などの生活習慣病対策も含む)	がんの早期発見(がん検診)	がんに関する専門的医療従事者の育成	がん医療に関わる医療機関の充実(拠点病院の充実など)	がんに関する情報の提供	がんに関する相談やその支援	緩和ケア	がん登録	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	子どもに対する、がんに関する教育	その他	特にない	わからない	無回答
全体	100.0 812	24.0 195	60.7 493	41.3 335	50.4 409	27.1 220	35.1 285	26.0 211	4.9 40	28.6 232	10.1 82	1.7 14	1.7 14	3.7 30	6.9 56

[その他]

- ・ホスピスの充実（3件）
- ・予防検診の充実（3件）
- ・医療費の補助（3件）
- ・医療費の縮減・免除などの体制（2件）
- ・がん患者に対する差別の撤廃（1件）
- ・医療器の整備（1件）

問 40 療養生活を送る中で良かったことや不満、疑問に感じたこと（自由記述）

(40) 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見（意見数が多いなど）のうち代表的なものを上位最大5件まで抽出して掲載している。

A 療養生活を送る中でよかったと感じたこと

□家族、友人、知人の支え（30件）

- ・家族や友人、知人の協力と支えがたいへん有難く、ゆっくり治療に専念できています。（4件）
- ・助けてくれる人が誰なのか、どんな人なのか、わかってきた。
- ・自分の人生、一度立ち止まって考えられたこと。家族の愛、絆を身に染みて感じたこと。（3件）
- ・1人暮らしのため、毎日不安な日々を送っていました。子供たちは近くに住んでいるので何かあった場合は家に来てくれたので救いでした。
- ・関係者の方をはじめ、家族の方が良くしてくれます。（16件）

□医師の対応（52件）

- ・ドクターの対応が丁寧でよかった。状況に大きく影響したと思います。事務的でなく、「人」として対応して下さった。（4件）
- ・担当医がとてもいい方で診察時間を充分にとってください、疑問や不安に一つ一つ答えて頂き、理解上で治療をすすめられてよかった。家族へのサポートも親身になって下さったのでとても安心して先生に任せられた。（4件）
- ・入院中、主治医を含め3名の担当医が毎日状況を把握して相談、協議しながらきめ細かな治療が行われた。（2件）
- ・主治医が毎日病室をのぞき、経過報告をしてくれたこと。（2件）
- ・検査結果で不安になったが、都度話を聞いてくれ、説明を受け安心できた。

□看護師や病院関係者の対応（71件）

- ・看護師の方々が痛みに寄り添い、わがままにも付き合い、心身共に助けて下さった。マニュアル通りに治療が進められてゆくように感じる中、先生方の説明が不十分のなか、患者との橋渡しを懸命にしてくださったこと。（9件）
- ・看護師の教育が非常に良い。（7件）
- ・立地の良い場所にあるためか、療養生活を送る中でも気持ちが後ろ向きにならず、頑張ろうと積極的になれている。また世話をしてくださる医師、看護師他のスタッフの皆さんの賢明さに前向きになっていると思う。（6件）
- ・看護婦さんが走り回ってくれる。精神的に安心で、よくいえば看護師さんと少しバカ話ができる時間があれば、ホッとする。
- ・愚痴をそっと聞いてくれるときはホッとする。何をしても声をかけながらしてくれるときがうれしい。（7件）

□治療の進め方（9件）

- ・身体の状態をみると症状が出てないので治療方法が正しいのかなと感じている。
- ・最新の治療方法等を使つての治療をしてもらい満足な療養ができた。

- ・経過観察、教授およびドクターが適確に指示（1ヶ月毎）いただいています。緩和ケアドクターも含む。
- ・いつも再発するのではと不安でいるが、定期検査をして結果を見てもらっているので安心して生活しています。

□病院の体制、設備（18件）

- ・完全看護体制で入院させてもらったこと。
- ・定期的な検査で進行状況がある程度わかること。
- ・居心地が良かった。
- ・がん患者のためのサロンがあることを知り、参加することで参加者の体験談などを聞くことができ、また自分の思っていることなどを話せてよかったと思っています。

□生きていることや健康のありがたさの再認識（29件）

- ・自分を支えてくれるすべての人への感謝の気持ちが強くなり、「人によって生かされている自分」が幸せであると思うようになった。と同時に「人への思いやり」の心も強くなったような気がする。主治医の先生だけでなく、放射線治療の先生も親身になって診てくださりサポートしてくださるのがとてもうれしく心強く感じている。（2件）
- ・まだ生きていること。（3件）
- ・自分の人生をゆっくり振り返ってみられたこと。
- ・今まで生きてきた日々をゆっくり省みたこと、また残されたときをいかに過ごしていくかを考えさせられた。（3件）
- ・がんにかかったことで健康の大切さがわかった。（7件）

□健康診断や早期発見の大切さ（15件）

- ・早期発見だったので何とか元気にしております。検診の重要性を痛感しております。（4件）
- ・私の場合、早期発見のおかげでがん治療はなく、体力的、精神的にも苦痛はなく、6年が過ぎ、非常にラッキーでした。がんの部位にもよるとは思いますが、早期発見は幸いでした（胃がんでした）。
- ・早期発見のため、手術後9日目で退院できたこと。（2件）
- ・人間ドックで発見され、早期に手術できたこと。
- ・「がん」を早期発見できてよかった。別の病気で「かかりつけ医」にかかっていたため、「がん」を早期発見できた。一病息災である。（2件）

□医療制度（7件）

- ・医療機関の充実感があつた。
- ・私の場合、高齢者で定期的に診察していただき体調によってお薬を頂き、現在健康に暮らさせて頂き、ありがたく思っております。
- ・村の健康診断で指摘。かかりつけの診療所にて、検査→大病院への紹介を通じて、早期治療を行っていただきました。県、村の医療体制に感謝いたしております。
- ・高額医療制度を知って助かった。医療費への不安が軽減された。（2件）
- ・国保の高額医療制度が利用できたし、また個人的にがん保険に加入していたので経済的に助かった。治療に専念できた。（2件）

□会社支援のありがたさ（8件）

- ・いま働いている職場の上司が親身になって対応してくれて休職中、復職後も援助してもらえること（勤務体制など）。（2件）
- ・勤務策の配慮により心穏やかに療養生活を送れたこと。家族に支援があったこと。
- ・パートですが、会社は有給で対応してくれました。退職しても、そのまま仕事をさせてもらいました。
- ・職場復帰したが従来と環境は全く変わらず、非常に長い生活ができた。
- ・長期の休業になったが給料（減額はされた）がもらえたので、生活の不安はなかった。

□その他（42件）

- ・今かかっている病院に出会ったことはよかったと思っています。お医者様も大変良いです。
- ・お金に不自由がなかったので良かった。今は年金生活に近いので（貯金はありますが）出せば減るでしょう。
- ・周りの人ががん検診等をうけるようになったこと。周りの人ががん保険等に加入したこと。

B 療養生活を送る中で不満や疑問に感じたこと

□家族の問題（3件）

- ・生活が一変する。本人だけでなく、家族全員。
- ・無理できなくなった。家族に理解してもらえない（食事が苦痛になることも）。
- ・母子家庭なので最悪子どもを残すこと。

□医師の対応（21件）

- ・年老いた母が理解できるように病状について説明していただけない。
- ・病院によって治療方針が違いすぎることに。
- ・入院中の投薬についてお薬の説明がなく、言われるままに服用していた。同じ部屋なのに薬の説明を受けておられる方もいらっしゃった。
- ・医師とのコミュニケーションが少なく、患者の顔をあまり見なくて、パソコンで話すのが少しさみしいです。（2件）
- ・担当主治医が病状のことを自分の一方的な説明だけで質問があまりできなかったこと。また、質問すると怒られるような感じがした。（2件）

□医師以外の病院スタッフの対応（17件）

- ・事務作業において対応、処理等が事務的であり、心遣いと優しさにやや欠ける場合があります。ただ多くの患者様が利用されるためやむを得ない場合があるとは思いますが、可能な限り心からの対応をお願い申し上げます。
- ・食生活についてあまり詳しく助言なさってくださらないので、一人で考えて色々問題が起きて悩みました。大方一年になりますが、まだ食べることに不安を持ちながら生活しています。いつまで続くのかと不安です。逆流性食道炎を起こしたために。
- ・入院中、一部の看護師さんの大きな声は心臓に負担が大きいので相手を見て声掛けして欲しいです。
- ・医療体制：科別タテ割りの弊害→患者が被害。

□治療の進め方（5件）

- ・薬漬けになっているように思う。検査が多いと思う（採血、CT検査）。
- ・抗がん剤の副作用がきつい。
- ・自分のがんについて知る手段として本やインターネットしか思いつかなかったが、それによかったのか、もっと自ら学ばなければいけないのか。

□病院の体制・設備（13件）

- ・病院そのものの運営、運用に疑問あり。天候や外温に関係なく、指定時刻になるとエアコン（空調設備）がカットされ、密室のため温度が上昇し、湿度が下がり、35%以下となり、のどやはなが乾燥した（理由は総務が自動でカットしているとのこと）。現場で運営し、患者、特に術後すぐの者の保護を優先して欲しい。
- ・入院、食事のまずさ、ひどさに2ヶ月目に入ったころから体重が病気ではなく減りました。決して贅沢ではないのに元気になった今でもこのことだけが残念です。
- ・術後の食事指導、栄養指導が充実していなかったように思う。もっと充実させて欲しい。
- ・予約外来で診察の場合、最低でも1時間から2時間くらい待たされ疲れてしまい、患者が多いのはわかりますがもう少しうまくコントロールして緩和して欲しい。
- ・現在治療を受けている病院は田舎の病院ですが、病院全体で治療が全部受けられるのいいと思う。受診もスムーズにできている。この検査（治療）だけで他の病院というのは困りますので。専門の情報も待合コーナーに置いてあり自由に見ることができます。
- ・末期患者との同室はつらい面がある。

□自分の健康、再発等への精神的不安（19件）

- ・末期に至ったときの痛みがどれほどのものなのか恐怖だ。
- ・まだまだがんの病気はめったにない重病ということで人の目が好奇で見ていると感ぜられる。
- ・高齢であったので死への恐怖はあまりなかった。主治医から入院治療を勧められ、抗がん剤治療だけで、がんが後退するのか疑問はあった。何年も生存している方もあることも聞き、治療を受けることになった。人間は何才になっても本心は生きたいのかとそのとき感じた。
- ・再発、転移の心配。
- ・再発するのではという不安が常につきまといます。（4件）

□仕事や社会生活への復帰（10件）

- ・仕事が続けられなくなってしまった。社会から切り離されたように感じた。
- ・術後、どういう生活を送ればいいのか？本を読んでもいろいろ意見があり、迷っている。
- ・治療後の自宅療養中、どのように過ごせばいいのか、いつごろ職場復帰したらいいのか、その疑問をどこにたずねたらいいか悩みます。
- ・過去に何らかのがん治療を受けたことがあると、就職が非常に困難になること。
- ・会社に対する不信感、生命保険会社の態度。

□医療費等経済的不安・不満（17件）

- ・料金が高い（限度額認定を受けても）。限度額認定は一医療機関ごととなっていて手間が多くなる。
- ・休職中の収入に対する不満。

- ・通院が困難な人がまわりにたくさんいました。医療費が高く、その負担が大きくてやめる人もいました。
- ・がん保険はかけていたにもかかわらず、いろいろな条件で支払いを受けることができなかった。ものすごく不満に思っています。
- ・なぜ、薬がこんなに高額なんですか？PET、MRI、CTの検査費が高すぎる。(2件)

問 41 医療機関や行政に対するがん医療に関する自由意見（自由記述）

(41) 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見（意見数が多いなど）のうち代表的なものを上位最大 10 件まで抽出して掲載している。

A 医療機関に対しての自由意見

□医師について（45 件）

- ・私は無職で期間の余裕はあるが、診察までの待ち時間が長いので制約のある方は大変だと思うので医師の増員が必要と思う。
- ・担当医が再三代わって不安に思った。（3 件）
- ・がん告知を受けて優しく患者の立場に立って医療処置に対応して欲しい。私のかかった主治医は聞く耳を持たず、素人は黙って医者の方のやり方に口をだすなど言わんばかりで、テレビやがんの本の内容について説明を求めると個人差あると怒って答えてくれない。（2 件）
- ・病院では医師は病気だけを診て、看護師が患者のメンタルを診ていただいているように見受けられますが、私にとれば病気を治してもらうことも大切ですが、メンタルも本当にボロボロになります。そこまで先生に頼れば嬉しいです。（3 件）
- ・できるだけ専門医を増やし、ゆとりを持って治療して欲しい。最新の技能を取り入れて欲しい。なんせあれだけ忙しいとゆっくり説明もできず、機械的になるんだろうと理解している。これでは医師も勉強できないだろうと思う。（4 件）

□看護師等病院スタッフについて（26 件）

- ・先生の対応は仕方ないと思う部分があるが、その科の受付の人の対応はもっと良くして欲しい。ある意味、先生より怖い。
- ・夜勤看護師の増員、3 名程度では過酷。（2 件）
- ・看護師の知識不足、勉強不足を感じる。
- ・看護師の時間交替の際、患者の意向引継ぎが充分でない。（2 件）
- ・看護師さんたちが仕方なく、仕事をしている感じ。
- ・スタッフの方の重労働があまりにも過ぎると思うので、待遇の改善や増員などを実施すべきだと思う。

□専門病院・医療機器の充実について（27 件）

- ・医療機関同士の患者の獲得に影響があると思いますが、患者から見ればその病院が得意とする分野がはっきりしていれば受診に役立つ。
- ・入院の必要時、希望する病院に入院できるようにして欲しい。
- ・秀れた医療機関への受診の機会が大変難しい（たとえば紹介状が必要であっても地方の医師はなかなか紹介状がいただけない場合がある。小生がそうである）。
- ・標準医療だけでなく、先進医療や治験にももっともっと積極的に取り組んで欲しい。セカンドオピニオンの話は主治医に悪いような気がして、実際にはたいへんいいづらいものである。（3 件）
- ・近くの小さな病院でも大手術等のとき、他病院等から医師の応援等があっても無理して遠くの病院に入院しなくても良いように計ってもらいたい。

- ・日進月歩の医学の進歩に近く将来、がんは全治すると思う。ここ十数年のがん治療の進歩に医療機関に敬意を表したい。
- ・最新の医療器の導入。
- ・充実した医療を受けている。上をみればきりがないと思う。

□病院の体制・設備について（39件）

- ・医療従事者などから待合室などで病状について詳しく聞かれている状況を目撃することがあるが、「人に聞かれたくない」と思うこともあると思う。個別の部屋を設置してもらい、医師の診察前の質問を行ってもらえるようにできないだろうか。
- ・病院の改修で玄関周りなど見違えるほどきれいになりましたが、まだ精算会計などのコースが慣れなくて戸惑います。それに治療してもらおう部屋をもう少し広くして欲しいです。やっぱり手狭です。
- ・ハード面に関しては入院治療環境にもう少しゆとりがあればよかったですと思います。
- ・他の病院で取り組まれている新しい治療方法でも試験的に採用して欲しい。
- ・複数の科や検査が多くなり、会社を休むことが多くなる。なるべく日をまとめて欲しい。ナースコールは緊急と普通に分けられないか。
- ・診察科が変更になるたびに初診として予約患者の後回しになるため、長時間待たなければならなかった。（3件）
- ・手術後の病理検査に日数がかかりすぎ（約3週間）
- ・検査結果や治療中により細かな情報が得られ、また疑問や不安に対してのカウンセリングの機関があわせてあればよいと思います。（2件）
- ・各医療機関全般的に相談窓口を設ける。（2件）
- ・がんと告知されれば、一日も早く早期発見、早期治療を言われている現在、年齢を問わずにがん患者は優先入院する（できる）ように改善して欲しい。要するに「コネ」は無くして公平に扱って欲しい。

□緩和ケアについて（11件）

- ・どんな風に最後を迎えることになるのかとても不安です。ホスピスに入るだけの精神力は母にはありません。できる限り自宅ですべてと思っています。今は訪問看護、ドクター、ヘルパー、主治医との連携で診てもらっています。自宅で難しくなったとき、以前通っていた病院の主治医の下で入院させてあげたい。積極的治療が無くても心のケアを第一に。
- ・医学の進歩は目を見張るものがありますが、まだまだがんにかかった人への負担は大変なものです。少しでも軽くなるようなケアや医術を希望します。
- ・緩和ケア認定看護師や乳がん専門の看護師の数を増やし、継続したケアをしてもらえる体制づくりをして欲しい。引っ越しして現在の病院に通院しているが、転院前の県外の病院では常に診察時に認定看護師が付き添ってくれ、相談しやすい状態だった。
- ・一人ひとり症状が違う患者に対しての対応をいかに患者に不安を与えずに進めていくかが大事だと思います。
- ・がんの告知をされて初めてがん治療に関心を持つ。基本的なことも何も知らない患者に対して診察時の説明だけでは不十分になる。

□医療費について（13件）

- ・新薬にかかる費用が高額なため、もう少し安くならないでしょうか。

- ・検査料、薬代が高くなります。入院費用など思うと抗がん剤を受けることもためらうことになりそうです。(3件)
- ・肺、胃などが主であり、大腸その他のがん部分の検診は本人が定期ドック入りのうえ、検診しない限りチャンスはないのが現状です。定期健診(ドック)は保険が効かず費用負担のできる人に限定されるのが実状なのは！
- ・がん検診を無料にして欲しい。何回も見て欲しいから。
- ・ペット等(MRI)の医療費の削減をお願いします。

□その他(23件)

- ・このアンケートを見て医療機関にも相談する場所のあることがわかり、安心しました。
- ・地域連携で、この病院に来られたことがよかった。
- ・命を助けていただいて大変うれしく感謝しております。
- ・私は近所の病院に通っているので、受付の人が近所の知り合いの人なのでプライバシーが守られているのか心配です。
- ・がんという病気は即「死」と思ってしまうので、そうでないことをもっとアピールした方がよいと思います。大きな病院は案外横の連携もできていないと思うので、もっと連絡を密にしてほしいと考えます。
- ・講演会等のがんについて知る機会を与えてほしかった。

B 行政に対しての自由意見

□医療体制の充実について(32件)

- ・奈良県は病院が少なすぎる。病院を増やし、医師も増やすべき。医大を増やして意欲のある医師を多く輩出して欲しい。
- ・がん治療に対する放射線の最新の機械を導入して欲しい。
- ・がん治療のできる病院をもっと増やして欲しい。自宅から病院がもう少し近ければ家族の者も楽だったりするし、通院する患者にもいいと思う。今は設備が整っていて、いい先生がいる、専門の先生がいる病院が少ないように思う。(2件)
- ・医療費の増大で大変だろうが、人間命あつての誰なので医療機関の応援をお願いしたい。患者負担もある程度は増しても良いのでは。最新の機器は価格も高いが、あれは有用で患者も助かる人が多いと思う。(2件)
- ・県内のがん専門病院をつくり増やしてってください。
- ・もっと医者が育つ環境を整えて欲しい。
- ・希少ながんに対しての専門医が少なく、情報量も限られているのが残念だ。
- ・ますますの医療充実と教育。

□緩和ケアについて(8件)

- ・終末医療に対する法的規制の緩和の検討を推進。痛み緩和に対する財政支援(無料化)。
- ・告知された直後に「緩和ケア」と言われショックを受けた。ケアの担当の先生には大変お世話になり感謝にたえませんが、利用側に配慮のないネーミングだと強く感じました。
- ・がんの診断時、「告知」と「緩和ケア」はセットで治療対象にして欲しいです。「告知」によって本人及び家族の「心のケア」は重要、必須だと感じました。緩和ケアは終末医療ではないと周知させて欲しいです。

- ・新しい治療については、早く対応して採用して欲しい。
- ・患者本人の心のケアも大事ですが、それを支える家族に対するケアも大事だと思います。
(グリーンケアなど) 病気はうつらないですが、精神的なことはうつると思います。

□相談支援・情報提供について (31 件)

- ・医療機関と行政が連絡をとりあって、患者さんに対して密に対応し、さまざまな相談に乗れるようになっていただければ、実際がんになってもいろいろな面で安心できます。(2件)
- ・がん治療を受けたすべての患者に対し、総合的な生活態度、注意事項、患者のがん部位に対するケアとそれに合った器具、販売店など資料があれば嬉しい。
- ・がん治療のための窓口を幅広く開放してもらいたい。
- ・気軽に相談できて、アドバイスをして頂ける体制を望む。また、相談センター等の案内とその部署(場所)をもっとわかり易く知らせて欲しい(案内板等に)。(2件)
- ・できればサロン等もつくれたら嬉しい。
- ・患者、家族が他の患者、家族と話し合う気軽な場所があれば良いなあと思います。

□がん予防・がん検診について (17 件)

- ・今年のお〇〇町の集団検診で(1月31日)大腸がん検診異常なしと回答が来たのに、わずか5ヶ月で5cmのS状結腸がんになっているというのはどういうことなのか!
- ・血液検査でがんの疑いが早期発見できる検査対策(有料でも)をして欲しい。
- ・早期発見につながる体制を望みます。(2件)
- ・誰でも受けられる検診、費用が少なくてすむようにして欲しいです。(2件)
- ・がんは早期発見、早期治療が第一です。大腸内視鏡の場合、内視鏡挿入の異物感からとかく謙遜する人が多いようで、より簡単無痛の方法を考えていただきたい。
- ・奈良県はまだまだがん患者であることを隠し、私の市の福祉センターでも検診等の啓発をもう少しやって欲しい。(3件)
- ・行政がもっとがんに対して、動いて欲しい(早期発見)。(4件)

□社会復帰・社会支援について (11 件)

- ・退院後の社会復帰の手助けをもう少し頑張ってもらいたい。(4件)
- ・回復すれば、何かのお役に立ちたいと考えている。経験者としてお役にたてることがあれば内容等を広報等に記載して欲しい。可能であれば参加したい。
- ・元の職場復帰を希望したが、受け入れられず役職もはずれた。給与もほぼ半減。訴えることも考えたが、再就職の難しさもあり、会社のいうままで新しい部署は大変であった。ある程度の保障は欲しい。中小企業は無理かとあきらめた。その後退職。企業に対しての教育が必要と思う。

□医療費や経済的なことについて (69 件)

- ・新薬にかかる費用が高額なため、もう少し安くならないでしょうか。(5件)
- ・生活や金銭への負担が一番今までの生活にダメージを与えますので、市民のサポートをお願いしたいです。(11件)
- ・私はがんになったため、パートを続けることができず、やめてしまいましたが、大学生の子どもが2人に、住宅ローンもあり、生活が苦しいです。がんで仕事ができない人のためにどうにかならないでしょうか。
- ・限度額適用認定費を使っても退院のときは16万払いました。年金生活の私達には大変な

額です。60才頃からいろいろと病気も出てきます。保険も来年から2割負担と聞いています。せめて65才くらいから引き上げてもらえたら嬉しいです。(4件)

- ・働きたくても働けない人の税金関係についてももう少し開示して欲しい。国保、年金、市県民税の免除や減額、知らずに困っている人は多いと思います。前年に収入はあっても今が無職だと払えません。
- ・月に1枚でもいいので通院のためにタクシーチケット、子どもがいる家庭には託児(保育園に半日無料であずけられる)チケットがでる等、車などなかったり、移動が大変な人には嬉しいと思う。
- ・先進医療にも公的医療保険が適用されるように。(3件)
- ・早く高度医療の保険化を実現して欲しい。
- ・高額医療費の手続きをしてもやっぱり入院が長引くとお金がかかってしまうのでそのへんを何か考えて欲しい。(9件)
- ・がんの治療中、母親の代わりをしてくれる家政婦等が割安で利用できたらいいと思う。治療後も手術の副作用で苦しんでいる人も多い。少しでもお金がかからないような制度を作って欲しい(検査代だけでも相当お金がかかる)。

□その他(25件)

- ・このような意識調査を行われたことに感謝すると共により良い取り組みをして頂けるよう希望します。ありがとうございました。
- ・この調査について、患者の気持ちを逆なでするような質問は再考の余地があるのではないかと思う。記入しながらも、だんだんイライラした気分させられた。
- ・病人のことを本気で考えて動いてもらえば少しのミスは許せると思います。やる気を出して欲しいだけです。行政は他人事では済みませんから。
- ・少しでも現在より良くしようと思って本アンケート等を実施して下さることは大変ありがたいと思っています。今後の患者のためにも有効と思います。
- ・行政の役割については何をしているのかよくわからない。もっと具体的に説明がいるのでは。例) 病院内のテレビ、広報をわかりやすくする等(書類関係はほとんど見ない)。

(参 考)

(参考) アンケート調査票

ならのがんに関する患者意識調査 ご協力のお願い

みなさまには、日頃から、県政にご協力をいただきありがとうございます。

県では、平成25年3月に第2期奈良県がん対策推進計画を策定し、がん対策に取り組んでいるところです。

今後、さらに県の取り組みを充実していくために、県内の病院で治療を受けている患者のみなさまのご意見をお伺いし、現状で不足していることや、今後、重点的に取り組むべきことを明確にしたいと考え、この調査を実施することといたしました。

調査の内容は、20分程度で回答できる分量となっております。

また、ご回答は無記名でお願いするとともに、ご回答いただいた内容は厳密に守秘され、統計目的以外に用いることはありませんので率直なご意見をお聞かせください。

大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成25年10月 奈良県

ご記入について

- 記入が困難な方は、ご家族の方などのご協力をお願いします。
- それぞれの問で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合や、記述式の問の場合には、() 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆ではっきりとわかりやすくお願いします。
- ご回答が済みましたら、一緒にお渡しした返信用封筒に調査票を入れて密封の上、**平成25年11月15日(金)**までに、お近くの郵便ポストに投函してください。
(切手は不要です。)

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県医療政策部保健予防課 がん対策係
電話 0742-27-8928 (直通)

ならのがんに関する患者意識調査 調査票

F 1 このアンケートの記入者はどなたですか。【○はひとつだけ】

1. 患者さんご本人が記入
2. ご家族の方などが協力して記入

■ 以下の質問は、がん患者さんご本人についてご記入ください。

F 2 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳代ですか。

() 歳代

F 3 患者さんご本人の性別を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 男
2. 女

F 4 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

() 都・道・府・県 () 市・町・村

F 5 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

昭和 ・ 平成 _____ 年 _____ 月頃

F 6 最初のがんと診断された部位はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | | |
|-------|-----------|-------------|
| 1. 肺 | 5. すい臓 | 9. 乳房 |
| 2. 食道 | 6. 大腸 | 10. 子宮 |
| 3. 胃 | 7. 血液・リンパ | 11. 卵巣 |
| 4. 肝臓 | 8. 前立腺 | 12. その他 () |

F 7 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 奈良県立医科大学附属病院 | 5. 市立奈良病院 |
| 2. 県立奈良病院 | 6. 国保中央病院 |
| 3. 天理よろづ相談所病院 | 7. その他 () |
| 4. 近畿大学医学部奈良病院 | |

F 8 現在かかっている病院には、入院、外来のどちらの形で受診されていますか。【○はひとつだけ】

1. 入院
2. 外来

F 9 現在のがんの治療状況を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 治療の開始前
2. 治療を継続中
3. 治療が終わり経過観察や定期検査中
4. 治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態
5. その他 ()

裏面（次ページ）にも記入してください

F10 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 医師による紹介 | 11. 専門性が高い医療を提供している |
| 2. 家族・友人・知人からのすすめ | 12. 様々な症状に対応できる医療を提供している |
| 3. 自宅や職場・学校に近い | 13. 受きたい検査や治療をおこなっている |
| 4. 交通機関の便がよい | 14. 生存率、合併症発生率などの治療成績が良い |
| 5. 以前に来たことがある | 15. 入院にかかる経済的負担が少ない |
| 6. 以前に受診した医療機関に満足できなかった | 16. 連携している医療機関・福祉施設が充実 |
| 7. 大きな病院で安心そう | 17. その他 (_____) |
| 8. 病室などがきれいな病院だから | 18. 特に理由はない |
| 9. 医師や看護師が親切 | |
| 10. 技術のすぐれた医師がいる | |

F11 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【〇はいくつでも】

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. 医療機関の相談窓口 | 7. 病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報 |
| 2. 病院が発信するインターネットの情報 | 8. 新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組 |
| 3. 病院の看板やパンフレットなどの広告 | 9. 医師（かかりつけ医）からの情報 |
| 4. 行政機関の相談窓口 | 10. 知人や家族からの情報 |
| 5. 行政機関が発信するインターネットの情報 | 11. その他 (_____) |
| 6. 行政機関が発行する広報誌やパンフレット | 12. 特に情報は入手していない |

医療機関で受けた診断や治療について

(1) 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	わからない
医師による診療・治療内容に満足していますか	5	4	3	2	1	0
医師との対話に満足していますか	5	4	3	2	1	0
医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか	5	4	3	2	1	0
痛みなどのからだの症状をやわらげる対応に満足していますか	5	4	3	2	1	0
精神的なケアに満足していますか	5	4	3	2	1	0
全体として受診されている病院に満足していますか	5	4	3	2	1	0

(2) (1) のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

不満な点は、具体的にどのような点ですか。	
不満な点について、どのような対応を望みますか。	

次のページにも記入してください

(3) 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。
【○はひとつだけ】

1. よくわかった
2. だいたいわかった
3. あまりわからなかった
4. まったくわからなかった
5. 説明を受けていない → 【(7) へおすすみください】

(4) (3) で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

1. 十分に伝えられた
2. 質問にくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった
3. 的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった
4. その他の理由で、十分には伝えられなかった
5. 疑問や意見は特になかった

(5) (3) で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
病名の告知や診断、治療方針の説明の際に、医師からがん患者ご本人の気持ちに対して配慮を感じられましたか。【○はひとつだけ】

1. 十分配慮が感じられた
2. ある程度の配慮が感じられた
3. あまり配慮が感じられなかった
4. 全く配慮が感じられなかった
5. どちらともいえない
6. 覚えていない

(6) (5) のご回答に関して、下記の点についてご自由にご記入ください。

配慮を感じた/配慮を感じられなかったのは、具体的にどのような点ですか。	
こんな配慮があったらもっと話を受け止めやすかったのという点があったら教えてください。	

裏面（次ページ）にも記入してください

(7) 他の医師の意見（セカンドオピニオン）は必要だと思いますか。【〇はひとつだけ】

1. 思う
2. 思わない _____
3. セカンドオピニオンを知らない _____ →【(12) へおすすみください】

(8) (7) で「1. 思う」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

1. 受けたことがある
2. 受ける予定がある _____ →【(12) へおすすみください】
3. 受けたことがない _____ →【(11) へおすすみください】

(9) (8) で「1. 受けたことがある」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けて良かったと思いますか。【〇はひとつだけ】

1. 良かった
2. 良くなかった _____
3. どちらともいえない _____ →【(12) へおすすみください】

(10) (9) で「1. 良かった」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けてどのような点が良かったですか。【〇はいくつでも】

1. 治療の選択肢が増えた _____
 2. 治療内容についてより深く理解できた _____
 3. 前医の説明の信頼度が増した _____
 4. 転院するきっかけとなった _____
 5. その他 (_____) _____
- 【(12) へおすすみください】

(11) (8) で「3. 受けたことがない」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを必要だと思うが、受けなかった理由は何ですか。【〇はいくつでも】

1. 受けた方がいいのか判断できない
2. 主治医に受けたいと言いつらい
3. どうすれば受けられるのかわからない
4. 受けられる医療機関が近くにない
5. 手続きが面倒そう
6. 費用がかかる
7. その他 (_____)

(12) 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容		そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
からだの苦痛	痛みがある	5	4	3	2	1
	痛み以外の症状がある	5	4	3	2	1
気持ちがつらい		5	4	3	2	1
経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある		5	4	3	2	1

(13) がん医療における緩和ケアとは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげることですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていますか。【○はひとつだけ】

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている _____ → 【(17) へおすすみください】
3. 知らない _____

(14) (13) で「1.よく知っている」と回答された方にお伺いします。
あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思っていますか。
【○はひとつだけ】

1. がんが診断されたときから
2. がんの治療が始まったときから
3. がんが治る見込みがなくなったときから
4. その他 (_____)
5. わからない

(15) (13) で「1.よく知っている」と回答された方にお伺いします。
現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験の有無、緩和ケアの提供や症状の改善についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

(15)-1 緩和ケアを受けた経験はありますか。
【からだの苦痛、気持ちのつらさについて、それぞれ○はひとつだけ】

(15)-2 (15)-1で「ある」と回答された方にお伺いします。
緩和ケアは希望に応じてすぐに提供されましたか。また、症状は改善しましたか。【それぞれ○はひとつだけ】

内 容	緩和ケアを受けた経験
からだの苦痛	1. ある _____ →
	2. ない
気持ちのつらさ	1. ある _____ →
	2. ない

内 容		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
からだの苦痛	すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
	症状が改善した	5	4	3	2	1
内 容		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
気持ちのつらさ	すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
	症状が改善した	5	4	3	2	1

(16) (15)-1で「からだの苦痛」または「気持ちのつらさ」のいずれかで、緩和ケアを受けた経験が「2. ない」と回答された方にお伺いします。
緩和ケアを受けなかった理由は何ですか。【○はいくつでも】

1. 受けるような症状が出ておらず、必要がなかった
2. 自分の症状は、緩和ケアを受けても、改善しないと思った
3. この程度のつらさは、がまんすればよいと思った
4. 主治医や看護師に受けたいと言い出せなかった
5. 主治医や看護師に希望を伝えたが受け入れてもらえなかった
6. 治療を受けた医療機関には、求める緩和ケアを提供できる体制がなかった
7. 費用が高かった
8. どうすれば緩和ケアを受けられるのかわからなかった
9. これから受ける予定
10. その他 (_____)

裏面（次ページ）にも記入してください

(17) 奈良県が緩和ケアの普及啓発を目的に発行している「がん患者さんのための患者必携」を知っていますか。【〇はひとつだけ】

1. 知っている
2. 知らない

今後の治療・療養について

(18) がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医とかかりつけ医が二人で連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス(注参照)」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

(注) がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医と地域のかかりつけ医が二人で連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などが利用されている。

1. 病院から説明を受け、この制度を利用している _____ → 【(19-1) へおすすみください】
2. 病院から説明を受けたが、この制度は利用していない _____
3. 病院からの説明はなかったが、この制度の存在は知っている _____ → 【(19-2) へおすすみください】
4. この制度の存在を知らない _____

(19-1) (18) で 1, 2 と回答された方にお伺いします。

この制度を利用している（または利用していない）理由は何ですか。【〇はひとつだけ】

1. 主治医が勧めたのだから良いことだと思って、この制度を利用している _____
2. 主治医から十分説明を受け、納得した上で、この制度を利用している _____
3. 本当はがんの専門医に診てもらいたいですが、主治医が勧めたので、この制度を利用している _____ → 【(20) へおすすみください】
4. 主治医から説明があつたが、十分納得できないので、この制度は利用していない _____
5. がんの専門医に診てもらいたいので、この制度は利用していない _____
6. その他 (_____) _____

(19-2) (18) で、3, 4 と回答された方にお伺いします。

もし、がん地域連携クリティカルパスの利用について主治医より勧められた場合、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

1. 主治医が勧めるのだから良いことだと思って、この制度を利用する
2. 主治医から十分説明を受け、納得すれば、この制度を利用する
3. 本当はがんの専門医に診てもらいたいですが、主治医が勧めるのであれば、この制度を利用する
4. がんの専門医に診てもらいたいので、この制度は利用しない
5. その他 (_____)

(20) 在宅緩和ケア（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

(注) 在宅緩和ケア：在宅緩和ケアを専門とする医師とかかりつけ医の往診により在宅で緩和ケアや医療を受けること。

1. 知っている
2. 知っているが、具体的な内容は知らない _____ → 【(23) へおすすみください】
3. 知らない _____

次のページにも記入してください

(21) (20) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
在宅緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

1. 受けたいし、実現可能だと思う _____
2. 受けたいが、困難な気がする →【(22) へおすすみください】
3. 希望しない _____ →【(23) へおすすみください】
4. 経験した（現在受けている） _____
5. わからない _____

(22) (21) で「2. 受けたいが、困難な気がする」と回答された方にお伺いします。
困難だと思う理由は何ですか。【〇はいくつでも】

1. 家族に負担をかけるから
2. 介護してくれる家族がないから
3. 急に病状が変わったときの対応が不安だから
4. 経済的な負担が大きいから
5. 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
6. 訪問看護や介護の体制が不十分だから
7. 往診などをしてくれる医師がないから
8. 医師や看護師の訪問が精神的に負担になるから
9. その他（ _____ ）
10. 特に理由はない

(23) もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるとすれば、どこで過ごしたいと思いますか。
【〇はひとつだけ】

1. なるべく早く今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）
2. なるべく早く緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい
3. 在宅医療を受けながら、自宅で療養したい
4. その他（ _____ ）
5. わからない

（注）緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

(24) 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思いますか。【〇はいくつでも】

1. 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制
2. 在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制
3. 在宅療養に関して必要な情報の入手や相談できる体制
4. 家族の不安（心のケア）に対して相談できる体制
5. 家族の介護負担を軽減するため、患者が短期入院できる体制
6. 訪問看護、訪問介護の利用対象の拡大
7. 車いすやベッドなどの福祉用具の充実
8. その他（ _____ ）
9. わからない

裏面（次ページ）にも記入してください

相談支援・情報提供について

(25) がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。
【〇はいくつでも】

1. からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある
2. からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている
3. 誰に（どこに）相談すればよいのかわからない
4. がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている
5. がんに関する情報をどうやって手に入れたらよいかかわからない
6. その他（_____）

(26) あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	特に知り たくない
がんの治療方法についての情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
緩和ケアについての情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
自宅での療養生活についての情報が不十分である	1	2	3	4	5	0
がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	1	2	3	4	5	0

(27) がん診療連携拠点病院等内に設置されているがんの「相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【〇はひとつだけ】

（注）相談支援センター：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「相談支援センター」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、県立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院に設置。

1. 利用したことがある → 【(29) へおすすみください】
2. 院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない
3. あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない
4. 知らない → 【(29) へおすすみください】

(28) (27) で2, 3の「利用したことがない」と回答された方にお伺いします。
相談支援センターを利用しなかった理由は何ですか。【〇はいくつでも】

1. 行く必要性を感じない
2. 相談しても解決しないと思う
3. 同じ病院内なので相談しづらい
4. 相談時間帯が合わない
5. どのような相談にのってくれるのかわからない
6. その他（_____）

次のページにも記入してください

(29) 「患者サロン」(がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場)があることを知っていますか。【○はひとつだけ】

1. 知っている
 2. 聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない
 3. 知らない
- 【(33) へおすすみください】

(30) (29) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンについて、どこで知りましたか。【○はいくつでも】

1. 病院の医師、看護師等スタッフからの説明
2. 病院からの配布物(院内放送等も含む)
3. 行政機関が発行したチラシ
4. 知人や家族から聞いた
5. テレビ、新聞、ホームページ等
6. 活動しているところを見た
7. その他()

(31) (29) で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンに参加したことがありますか。【○はひとつだけ】

1. 参加したことがある →【(33) へおすすみください】
2. 参加したことがない

(32) (31) で「2. 参加したことがない」と回答された方にお伺いします。
患者サロンに参加したことがない理由は何ですか。【○はいくつでも】

1. 特に参加したいと思わない
2. 参加しても解決しないと思う
3. 参加したいが、どこで開催しているのかわからない
4. 参加したいが、開催日・時間が合わない
5. 参加したいが、開催場所が遠くて参加できない
6. 参加したいが、体調が悪く参加できない
7. その他()

治療と就労について

(33) 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

裏面(次ページ)にも記入してください

(34) がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【○はひとつだけ】

1. 正規の職員・従業員
 2. パート・アルバイト（学生を除く）
 3. 派遣社員・契約社員・嘱託
 4. 自営業・家族従業員 _____
 5. 家事専業・家事手伝い _____
 6. 無職 _____
 7. 学生 _____
 8. その他（ _____ ） _____
- 【(38) へおすすみください】

(35) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
がんになったことが原因で、就労状況に変化がありましたか。【○はひとつだけ】

1. 特に変化はなく、復帰している
2. 自わから希望して退職し、その後、就職しなかった
3. 自わから希望して退職し、転職・再就職をした
4. 自わから希望して退職し、求職活動中である
5. 自わから希望して、違う仕事の内容や就労形態の部署に異動した
6. 会社等の事情により退職し、その後、就職しなかった
7. 会社等の事情により退職し、転職・再就職した
8. 会社等の事情により退職し、求職活動中である
9. 会社等の事情により、違う仕事の内容や就労形態の部署に異動した
10. 現在、休職中である
11. 就労状況に変化はあったが、がんになったことが原因ではない
12. その他（ _____ ）

(36) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。
【○はひとつだけ】

1. 十分得られた
2. ある程度得られた
3. 得られなかった
4. 理解・支援は必要なかった
5. その他（ _____ ）

次のページにも記入してください

(37) (34) で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。

仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思えますか。【〇はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス制度（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰補償
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. 相談窓口の設置
13. その他（_____）
14. 必要ない
15. わからない

(38) 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

1. 医療機関における相談支援体制の充実
2. 職場における相談支援体制の充実
3. 行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実
4. 行政機関が発信する情報提供サイトの充実
5. 行政機関が発行する情報冊子の充実
6. その他（_____）
7. 特に、充実は望まない
8. わからない

全般的なことについて

(39) がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思えますか。【〇はいくつでも】

1. がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）
2. がんの早期発見（がん検診）
3. がんに関する専門的医療従事者の育成
4. がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）
5. がんに関する情報の提供
6. がんに関する相談やその支援
7. 緩和ケア
8. がん登録
9. がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備
10. 子どもに対する、がんに関する教育
11. その他（_____）
12. 特にない
13. わからない

裏面（次ページ）にも記入してください

(40) 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

○よかったこと

○不満や疑問に感じたこと

(41) 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

○医療機関に対して

○行政に対して

調査にご協力いただきありがとうございました。
返信用封筒に入れて密封の上、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

※切：平成 25 年 11 月 15 日（金）【当日消印有効】